

BZ-2-15

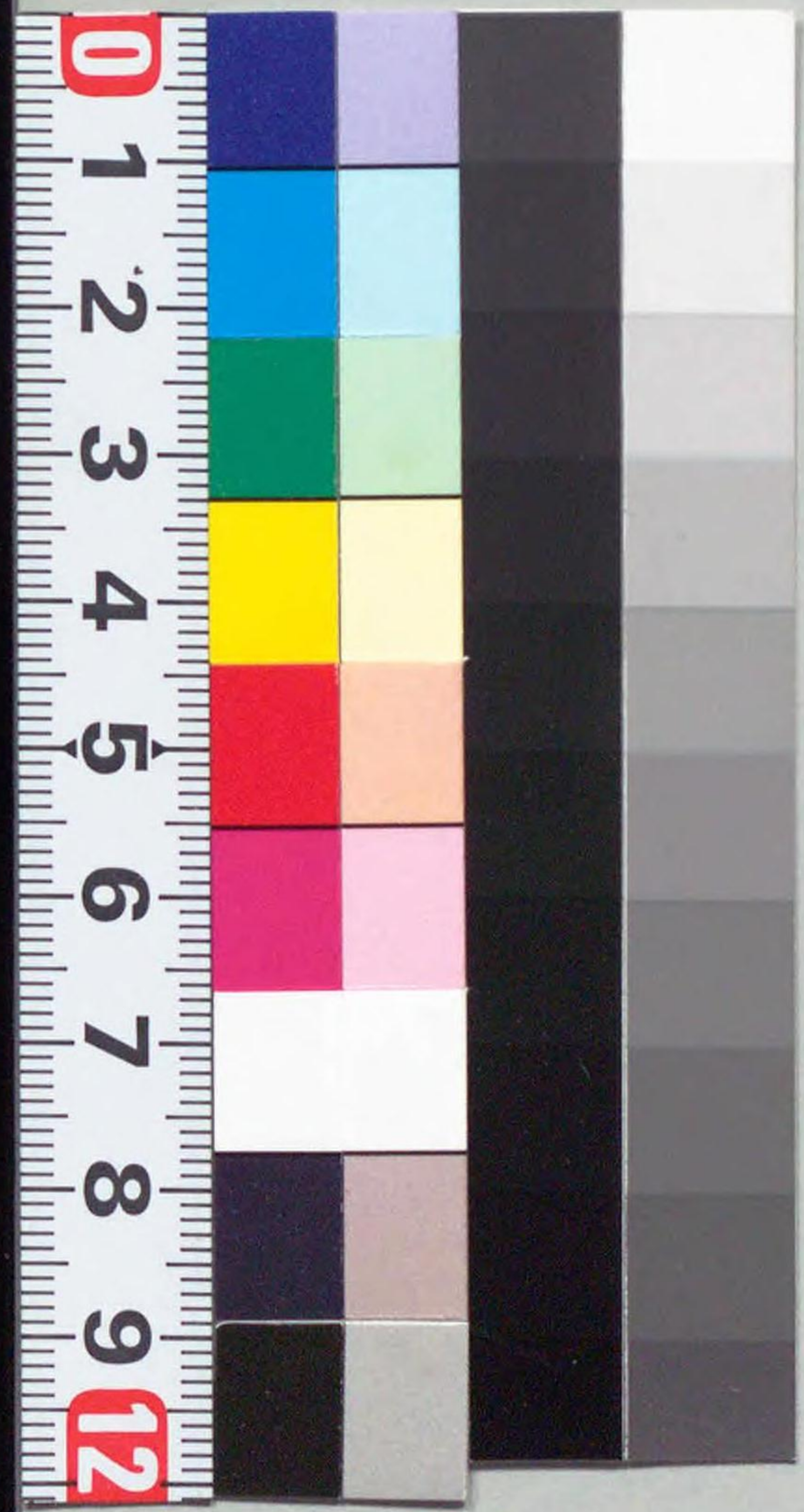


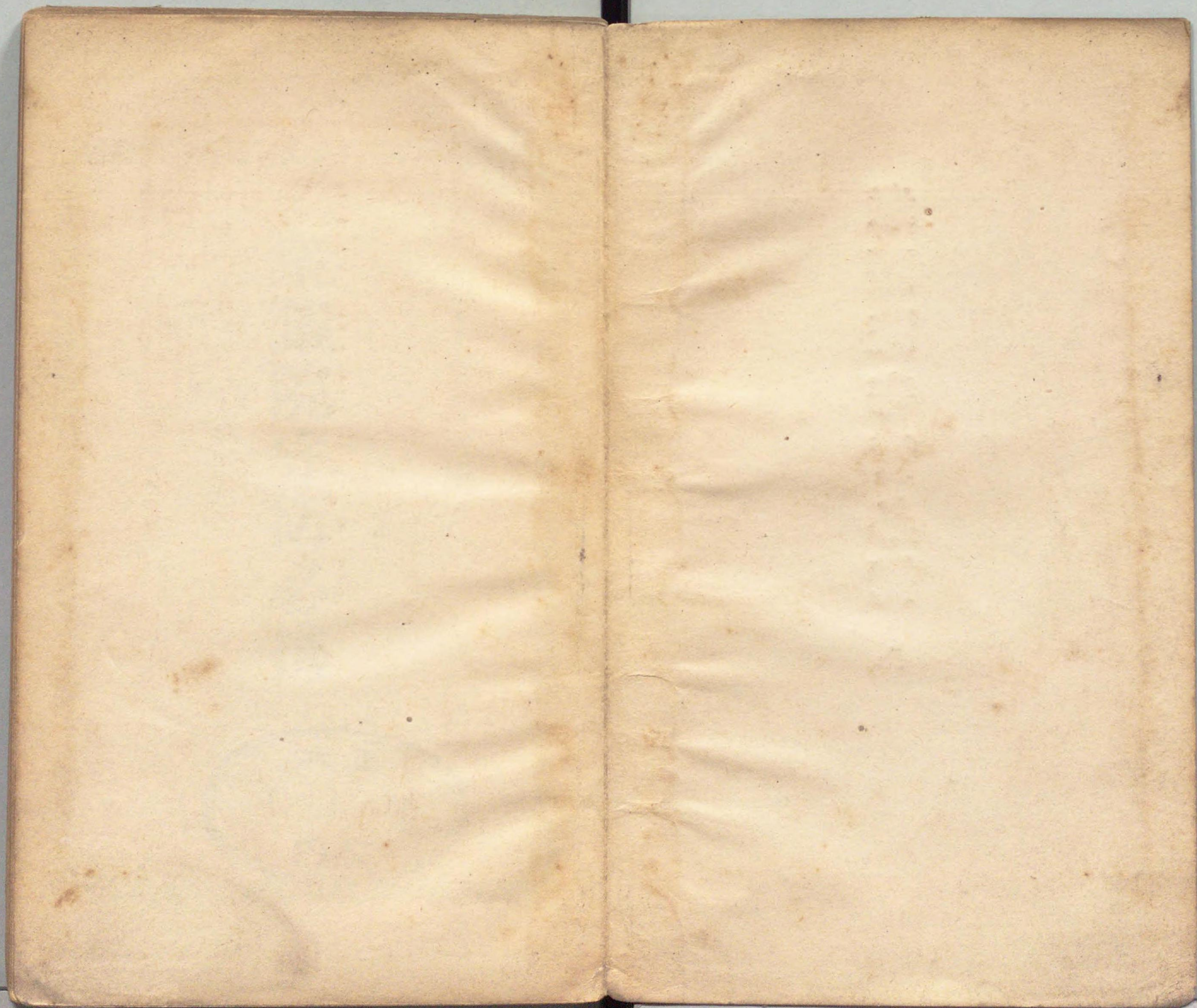
1200701320009

BZ
2
15

衆議院守衛必携 全

禁電子式複写







大正六年十二月增補

衆議院
守衛必携

大正
7. 2. 2
内交



衆議院守衛必携

目次

- 衆議院事務局官制……………一
- 貴族院衆議院守衛定員給與令……………三
- 貴族院及衆議院守衛待遇……………六
- 貴族院竝衆議院衛守懲罰……………六
- 貴族院守衛長及衆議院守衛長ノ特別任用……………七
- 貴族院竝衆議院守衛副長特別任用……………七
- 衆議院守衛採用規則……………八
- 議院ノ警察令外二件……………一三
- 守衛「部」長委任條件……………一四

目次

一



○守衛勤務……………	一五
○公用書類發送手續……………	三二
○議場開閉鎖心得……………	三四
○守衛禮式……………	三四
○手帳及名刺ニ關スル心得……………	四一
○點檢……………	四三
○水管車操典……………	四八
○守衛休暇規則……………	八二
○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制……………	八五
○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服裝規則……………	一〇三
○守衛給與品及貸與品規程……………	一〇四
○食料支給規程……………	一〇八

○豫備後備ノ軍籍ニ在ル貴族院及衆議院ノ守衛ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルモノニ休職ヲ命スルノ件……………	一一〇
○官吏服務紀律……………	一一一
○巡查看守退隱料及遺族扶助料法……………	一一五
○巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令……………	一二七
○巡查看守退隱料及遺族扶助料施行令……………	一三一
○巡查看守退隱料及遺族扶助料施行令ニ依リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程……………	一三三
○議院法拔萃……………	一四〇
○衆議院規則拔萃……………	一四二
○刑事訴訟法拔萃……………	一四三
○訓示……………	一四六

衆議院守衛必携

○衆議院事務局官制

(明治二十三年七月勅令第百二十二號)

第一條 衆議院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

書記官長

一人

書記官

三人

守衛長

一人

屬

十人

速記技手

十八人

守衛副長

一人

改正

明治二十四年七月、勅令第百號、二十四年十一月、勅令第百七號、二十六年十月、勅令第百六十六號、三十年十月、勅令第百八號、三十六年三月、勅令第百五十六號、四十二年三月、勅令第百三十三號、大正二年六月、勅令第百三十六號、五年五月、勅令第百四十九號

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録、筆記印刷、庶務會計
警務等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二 守衛長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ守衛副長以下ヲ部署
シ警務ヲ掌ル

第五條 屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ
從フ

第六條 (削除)

第七條 守衛副長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルト
キハ其ノ職務ヲ代理ス

屬定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得(明治三十年十一月勅令第四百十一
號ス)

○貴族院衆議院守衛定員及給與令(明治四十三年三月
勅令第六十二號)

改正(明治四十三年四月勅令第二百十號、大正三年三
月勅令第四十三號、五年六月勅令第六十號)

第一條 守衛ノ定員ハ各院三十二人トス

前項定員ノ外議會開期中ニ限り各院十三人ヲ増置スルコトヲ得

第二條 守衛ノ月俸ハ十二圓乃至二十八圓トス

第三條 初メテ守衛ヲ命セラルル者ノ月俸ハ十五圓以下トス

判任官以上ノ官職ニ在リタル者貴族院及衆議院ノ守衛ノ職ニ在リタル者
又ハ巡查ノ精勤證書ヲ有スル者カ守衛ヲ命セラレタル場合ニハ第二條ニ

定メタル範圍内ニ於テ其ノ前俸給額以内ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

第四條 月俸ノ増給ハ三圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十五圓以上ノ月俸ヲ受クル守衛ニハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス十五圓未滿ノ月俸ヲ受クル守衛ニシテ十五圓以上ニ増給スル場合亦同シ

第五條 守衛班長タル守衛及通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル守衛ニハ第三條及第四條ヲ適用セス

第六條 守衛ニハ一箇月五圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第七條 月俸ハ新任、増俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一 職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者

二 身體若クハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ因リ退職ヲ命セラレタル者

三 退職ヲ命セラレタル者

四 在職中死亡シタル者

退職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第八條 退職給ハ退職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第九條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限りニ在ラス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

貴族院衆議院守衛定員並俸給令ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額ヲ給セララルモノ
トス

六

○貴族院及衆議院守衛待遇

(明治二十四年十一月
勅令第二百八號)

貴族院及衆議院守衛ハ判任官ヲ以テ待遇ス

○貴族院並衆議院守衛懲罰

(明治二十四年十二月
勅令第二百三十九號)

貴族院並衆議院守衛ノ懲罰ハ巡查懲罰例ニ依ル

參照

巡查懲罰例(明治九年八月五日內
勅令乙第九十二號)

第一條 凡職務ノ規則ニ違反シ及ヒ怠慢失誤アルモノハ其情狀ヲ審按シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨ
リ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム

第二條 凡犯狀ノ職務ヲ恥カシムルニ係ル者ハ免職ス

第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ルモノハ追徴スルコトヲ免ス

第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム

但月俸ノ三分ノ一ヲ過クルコトヲ得ス

第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

○貴族院守衛長及衆議院守衛長特別任用

(大正五年五月勅
令第五百一十一號)

貴族院守衛長又ハ衆議院守衛長ハ五年以上貴族院若クハ衆議院ノ警務又ハ
警察事務ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在リ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ヨ
リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

○貴族院並衆議院守衛副長特別任用

(明治二十六年十一月勅令第二百九號
改正大正五年五月勅令第五百一十二號)

貴族院並衆議院ノ守衛奉職滿五ヶ年以上ニシテ現ニ其職ニ在ル者ハ試験ヲ
要セス文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ貴族院又ハ衆議院ノ守衛副長ニ任用

貴族院及衆議院守衛待遇 貴族院並衆議院守衛懲罰 貴族院守衛
長及衆議院守衛長特別任用 貴族院並衆議院守衛副長特別任用 七

スルコトヲ得

○衆議院守衛採用規則(明治三十年十一月改正四十年五月修正)

第一條 守衛ハ左ノ體格並ニ學術試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用ス

- 一 體格 身體健全ニシテ身幹五尺二寸以上ノモノ
- 二 法律 議院法刑法刑事訴訟法ノ大要
- 三 作文 假名交リ論文及普通往復文
- 四 算術 四則比例
- 五 筆跡 楷書行書

第二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ル者ハ守衛ニ採用スルヲ得ス

- 一 年齢二十一年未滿及四十五年以上ノモノ
- 二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サルモノ又ハ身代限ノ處

分ヲ受ケ其ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ
- 四 官吏懲戒例又ハ其ノ他ノ懲罰例ニ依リ免職後二ケ年ヲ經サルモノ
- 五 現ニ政社員タルモノ

第三條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルモノハ試験委員ノ銓衡ヲ經試験ヲ用井

スシテ採用スルコトアルヘシ

- 一 判任官以上ノ職ヲ奉シタルモノ及文官任用令第六條ニ依リ判任文官タルノ資格ヲ有スルモノ
- 二 衆議院ノ守衛退職後三ケ年ヲ經過セサルモノ
- 三 巡查看守ニシテ精勤證書ヲ有スルモノ
- 四 陸軍上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スルモノ

第四條 守衛採用試験ハ文官普通試験委員之ヲ行ヒ試験ニ關スル庶務ハ書

記ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第五條 守衛ニ採用セララルトキハ身元保證書及誓書ヲ差出サシムヘシ

第六條 身元保證人ハ二人トシ東京府下ニ住シ一家計ヲ立ツルモノニシ

テ郡區長ノ證明ヲ要ス貴族院衆議院ノ判任官以上ノ保證ニアリテハ此

限ニアラス守衛ハ保證人タルコトヲ得ス

第七條 志願書履歷書身元保證書及誓書書式左ノ如シ(用紙美濃紙ニツ折)

(志願書書式)

志願書

何府縣何郡何區何町何番地士族或ハ何某幾男

當時東京府何郡區何町何番地寄留何某方(寄宿)

何某

生年月日

右ハ今般貴院守衛奉職志願ニ候間御試驗ノ上御採用被下度此段奉願候也

年月日

氏名實印

衆議院書記官長何某殿

(履歷書書式)

履歷書

(用紙美濃紙ニツ折)

拜命若クハ退學年月日	辭令案又ハ修學科目	官衙名又ハ學校名若クハ塾名敎員氏名
年月日	何官廳何々 <small>(官名月俸詳細記ス)</small>	何官廳
年月日	何々	何々

右相違無之候也

年月日

氏名實印

衆議院守衛採用規則

(身元保證書書式)

身元保證書

(用紙美濃紙二ツ折)

印紙

何廳府縣士族
平民

氏名

右今般守衛ニ御採用相成候ニ付同人ノ身上ニ就テハ拙者共一切引受可申
萬一本人不都合ノ義有之節ハ拙者共ニ於テ辨償可仕候也

年月日

族籍又ハ寄留地

保證人 何 某實印

肩書同上

保證人 何 某實印

衆議院書記官長何某殿

右保證人何某ハ當郡區内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

東京府何郡區長 何 某 印

(誓書書式)

誠意赤心衆議院書記官長及守衛長ニ對シ左ノ事項ヲ誓フ

- 一 謹テ職務規則及上官ノ命令ヲ遵守スルコト
- 二 職務上權限外ノコトヲ論議セサルコト
- 三 素行ヲ修メ守衛タルノ品位ヲ保ツコト
- 四 人ニ接スルニ懇懃事ヲ視ルニ嚴正ナルコト
- 五 五ヶ年未滿ニシテ辭職セサルコト

以上

氏名實印

○議院ノ警察命令外二件

○明治二十四年十一月二十一日議長達(明治三十三年三月衆議院事務分掌規程改正ノ結果守衛部長ハ警務課長)

議院ノ警察命令外二件

政府派出警察官

議院ノ警察ニ關スル命令ハ自今緊急ノ場合ヲ除ク外總テ守衛「部」長ヲ以テ之ヲ傳達ス此旨相達ス

○明治二十四年十一月二十一日 議長達

本院開會中傍聽人及面會人ハ衆議院門内ニ於テ「ステツキ」又ハ仕込杖ノ類ヲ携帯スルヲ許サス

○明治二十四年十一月三十日 議長達

自今議員ノ車夫ニ對シテモ本月二十一日ノ訓示ヲ適用スヘシ

○守衛「部」長委任條件

(明治三十三年三月衆議院事務局分掌規程) 改正ノ結果守衛部長ハ警務課長

第一 犯罪人若クハ亂暴人ノ議場ニ闖入シタルモノヲ逮捕スルコト

但危害ノ虞ナキトキハ衆議院規則第七十一條ノ例ニ依ルヘシ

第二 傍聽人ニシテ衆議院規則第八十八條ノ一ヲ犯スモノヲ退出セシム

ルコト

但其ノ議事ノ妨害又ハ他人ノ障礙ヲ爲スニ至ラサルモノハ注意ヲ加ヘ再ヒ之ヲ犯スニ至リテ退出ヲ命スヘシ

第三 傍聽人守衛ノ制止ニ服セス抵抗辯論スルモノヲ退出セシメ若シ必要

ナルトキハ之ヲ引致スルコト

第四 守衛ヲ部署シ其ノ處務細則ヲ定ムルコト

第五 得遺失物ヲ所轄警察署ヘ轉送スルコト

參照

衆議院規則第七十一條議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

○守衛勤務(明治四十年五月修正)

守衛部長委任條件 守衛勤務

通則

第一條 守衛ハ議會開會中議長ノ指揮命令ニ依リ危害ヲ防止シ秩序ヲ保持シ議院警察ノ實行ニ任スルヲ本旨トス

第二條 人ヲ制止シ又ハ注意ヲ加フル場合ニハ懇切溫和ヲ旨トシ倨傲ノ言辭ヲ用ユヘカラス

第三條 非常事變ニ際シテハ剛毅敏速ニ其ノ職務ヲ盡シ怯懦ノ所爲ニ出ツヘカラス

第四條 上官ヲ尊重シ同僚相互ニ親愛協力シテ專心其ノ職ニ任スヘシ

第五條 守衛ハ品位端正ニシテ居常注意戒慎ヲ加ヘ其ノ職務ニ對スル威嚴信用ノ保維ニ勉ムヘシ

第六條 守衛ハ服務規定ノ外議院法及衆議院規則ノ大要ヲ領得スルヲ要ス

細則

第七條 守衛全員ヲ分テ甲乙丙ノ三部トナス

守衛ハ監督者ノ指揮ヲ承ケ其ノ勤務ニ服シ各輪番ニ宿直スヘシ

第八條 守衛班長ハ守衛副長ヲ助ケ守衛ノ配置監督其ノ他ノ職務ニ付之ニ代理スルコトヲ得

第九條 守衛ハ議場傍聽席ノ取締並受付、傍聽人受付、立番、巡邏、門衛及電話ノ勤務ニ服ス

第十條 守衛ハ左ニ掲クル方法ニ從ヒ勤務ニ服スヘシ

第一 議場

- 一 議場ノ出入口ヲ監守スヘシ
- 二 議長書記官長ノ命ヲ奉シ議場ノ取締ニ從事スヘシ

參照 衆議院規則

第二節 議場内ノ秩序

守衛勤務

第七十二條 議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロツクコート」又ハ「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス

第七十三條 議場ニ入ルモノハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

第七十四條 議場内ニ於テ吸煙スヘカラス

第七十五條 議事中心ハ参考ノ爲メニスルモノヲ除ク外新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

第七十六條 何人モ議事中賛聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演説及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

第七十七條 散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ得ス

第七十八條 議長號鈴ヲ鳴ストキハ何人モ總テ沈黙スヘシ

第七十九條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第二 傍聽席

一 傍聽人ノ入り來タリタルトキハ先ツ傍聽券ヲ點檢シ其著スヘキ席ヲ

指示スヘシ但貴族院議員ニシテ議員徽章ヲ佩用スルモノニ付テハ此限

ニアラス

二 傍聽人規則ニ背キタル行爲アルカ又ハ不行跡アルトキハ注意ヲ加フ

ヘシ

三 傍聽席喧噪ナルトキハ之ヲ制止スヘシ

參照 衆議院規則

第十三章 傍聽

第八十條 傍聽席ヲ分チ皇族席外國交際官席貴族院議員席公衆席及新聞記者席トス

第八十一條 外國交際官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ

指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第八十二條 官吏ノ傍聽ヲ求ムルモノアルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ其ノ員數

ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第八十三條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ

書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ部員

ニ配付ス

第八十四條 在東京日刊新聞社ニハ一會期ニ通スル傍聽券二十五枚在地方日刊新聞社ニハ十

守衛勤務

枚ヲ交付シ各社ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第百八十五條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官

長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第百八十六條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ傍聽人紹介人トモ其ノ氏名ヲ傍聽券ニ記入スヘシ

第百八十七條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第百八十八條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ

二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス

三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス

四 飲食又ハ吸煙スヘカラス

五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス

六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第百八十九條 戒器兇器ヲ携持シタルモノ及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

第百九十條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第三 受付及傍聽人受付

一 面會ヲ求ムルモノアルトキハ名刺ヲ出サシメ面會人名簿ニ登記

シタル後之ヲ本人ニ通知シ其ノ承知アルトキハ面會人ヲ面接所ニ

案内スヘシ

二 皇族來院アルトキハ先ツ皇族室ニ奉導シ之ヲ守衛長ニ報告スヘシ

三 書狀類及電信到達シタルトキハ書狀收受簿ニ登記シ議長宛ハ祕

書課ニ院名局名又ハ書記官長宛ハ庶務課ニ其ノ他ハ宛名ニ届ケ收

受簿ニ領收ノ印ヲ受クヘシ

四 發送書狀類ノ交付アルトキハ書狀發送簿ニ登記シ書狀取扱手續

ニ依リ送付スヘシ

五 傍聽人入場セントスルトキハ傍聽券ヲ點檢シ其當日限リニ係ル

モノハ施線ヨリ截去ノ上券面ニ認印シ其小片ハ取纏メ員數計算ノ

用ニ供スヘシ一會期間通スル傍聽券ニ對シテハ名刺ヲ請求シ其ノ名刺ニ認印シテ所持セシムヘシ

六 傍聽人ニシテ「カバン」風呂敷包ノ類ヲ携持シタルトキハ入場セシムヘカラス

七 傍聽人喫飯等ノ爲メ外出スルトキハ傍聽券ヲ預リ復ヒ入場スルニ際シテハ之ヲ返付スヘシ

八 月日等訂正シタル傍聽券ニシテ守衛長ノ印章ナキモノヲ所持シタルトキハ入場セシムヘカラス

九 傍聽人戎器兇器ヲ携持シ又ハ舉動怪シキモノアルトキハ其入場ヲ止メ守衛長ノ指揮ヲ請フヘシ

十 開議ヨリ一時間毎ニ傍聽人現員ヲ計算シテ之ヲ守衛長ニ報告スヘシ

第四 立番及巡邏

前項ノ員數ハ散會後之ヲ日計簿ニ登記シ守衛長ニ報告スヘシ

一 立番ハ指定ノ場所ニ立チ其ノ部内ヲ監守スヘシ

二 院内不案内ノ者ト認ムルカ又ハ其ノ案内ヲ求ムルモノアルトキハ懇切ニ指示スヘシ

三 議院徽章ヲ帶ヒスシテ院内ヲ徘徊スルモノアルトキハ之ヲ制止シ必要ト認ムルモノハ警務課ヘ同行スヘシ

四 院内ニ於テ戎器兇器其ノ他怪シキ物件ヲ密ニ携持スル者ナキヤニ注意スヘシ

五 廊下ニ佇立シテ通行ノ妨害ヲナス者アルトキハ之ニ注意ヲ加フヘシ

六 廊下ニ通行ノ妨害トナルヘキ物品ノ存在スルトキハ之ヲ當該係

官ニ注意スヘシ

- 七 廊下其ノ他ノ場所ニ不潔物ノ有無賄所便所ノ掃除及飲食品ノ良否等總テ衛生ニ關スル事項ニ注意スヘシ
- 八 建物、飾付品、備品、及園内下水等ノ破損其ノ他植物ノ轉倒枯死ノ有無ニ注意スヘシ
- 九 夜間ハ巡邏ノ都度豫テ備ヘアル點檢表ニ捺印スヘシ
- 十 巡邏員ハ火元其ノ他取締ノ爲メ絶エス各管區内ヲ巡視スヘシ

第五 門衛

- 一 出入ヲ查察スヘシ
- 二 議員、局員、國務大臣、政府委員其他議會ニ關係スル者ノ外物品ヲ搬出スル者アルトキハ之ヲ檢査シ庶務課ノ送證ナキモノハ何品ニ拘ラス其搬出ヲ止メ守衛長ノ指揮ヲ請クヘシ

三 門扉ヲ開閉シ其鍵ヲ監守スヘシ

第十一條 守衛ハ其ノ受持管區内ヲ點檢シ點檢表ニ捺印シ異狀アルトキハ速ニ之ヲ守衛長ニ報告スヘシ但破損ノ箇所ニハ年月日ヲ記載シタル小札ニ捺印シ之ヲ貼付シ置クヘシ

點檢ノ事項ハ大約左ノ如シ

- 一 火ノ元
- 二 扉及窓戶
- 三 敷物及窓掛ノ類
- 四 點燈器具、瓦斯管、蒸汽罐、及煖管、煖爐
- 五 室内及廊下ノ備付品
- 六 水道消火栓、井戶用水、庭園
- 七 消防器具

守衛勤務

ノハ翌日迄之ヲ保管シ第十條第三項ノ(三)ノ例ニ據ルヘシ取扱ヒタル事項ノ緊要ト認ムルモノハ守衛副長ニ於テ警務課日誌ニ記載シ翌日守衛長ノ檢閲ニ供スヘシ

第十五條 院内ニ於テ逮捕シタル犯罪人ハ之ヲ警務課ニ拘引スヘシ

第十六條 逮捕犯人ニ對シテハ其住所氏名年齢ノ外何事タリトモ訊問スルコトヲ得ス

第十七條 犯罪アリタル場合ニ於テハ犯罪人ヲ逮捕スルト同時ニ證據物件ヲ押收スヘシ若シ必要ト認ムルトキハ其ノ現状保存ニ注意スヘシ

第十八條 院内ニ於テ公私物品ノ紛失ヲ發見スルカ若クハ其ノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ搜查ニ著手シ且之ヲ守衛長ニ報告スヘシ

第十九條 前條ノ場合ニ於テ犯罪アリト思料スルトキハ嫌疑者ノ踪跡ヲ失ハサル様注意シ便宜守衛長ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十條 院内ニ於テ遺失品ヲ認メタルトキハ之ヲ警務課ニ持參シ日時場所ヲ報告スヘシ

遺失品拾得ヲ届出ツルモノアルトキハ拾得者ヲ警務課ニ同行スヘシ若シ同行スル能ハサルトキハ其ノ者ノ住所氏名年齢及其ノ拾得ノ日時場所ヲ聽取リ之ヲ守衛長ニ報告スヘシ

第二十一條 守衛ハ議會開會中ハ議院ヨリ路程十五町以内ニ居住スヘシ

第二十二條 新ニ守衛ヲ命セラレタル者ニシテ前條ノ規定ニ適合セサルモノハ十日以内ニ轉住スヘシ

但シ止ムヲ得サル事情アルモノニ限り守衛長ニ於テ特ニ延期ヲ許可スルコトヲ得

第二十三條 非番員外出ニ際シテハ家人ニ其ノ行先キヲ告知シ常ニ應召ノ用意ヲ爲シ置クヘシ

第二十四條 非常召集ノ命令ヲ受ケタルトキハ即時制規ノ服裝ヲ爲シテ應召シ受命書ヲ守衛長ニ提出シテ指揮ヲ受クヘシ

第二十五條 守衛ハ毎朝執務時間前ニ點檢及執務ニ關スル訓示ヲ受ケ又ハ應問ヲナスヘシ

第二十六條 守衛ハ正裝シタルトキ眼鏡、杖、傘、襟卷、呼吸器等ヲ用ユヘカラス

但病氣ノ爲メ主治醫ノ診斷書ニ依リ守衛長ノ特許シタルモノハ此限ニアラス

第二十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ闕勤スルトキハ出勤時刻前ニ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

但開會中ハ醫員ノ診斷書アルニアラサレハ引籠ルコトヲ許サス

第二十八條 病氣引籠二日ニ涉ルトキハ醫按ヲ添ヘ更ニ届出テ爾後七日目

毎ニ同様ノ手續ヲナスヘシ

但守衛長ノ特許アルトキハ七日目毎ニ此手續ヲ爲スヲ要セス

第二十九條 急變火災及近火ノトキハ直ニ參院スヘシ

第三十條 火災アルヲ認メタルトキハ其ノ遠近ニ拘ハラズ監督者ニ急報シ近火ノトキハ唧筒其ノ他消防要具ヲ整頓シ防火ノ用意ヲ爲スヘシ

第三十一條 火勢蔓延スヘシト認ムルトキハ第一書類第二貴重ノ物品第三普通ノ器具ト順序ヲ追ヒ搬出スヘシ

第三十二條 出火ノ場合ニハ直ニ倉庫ノ扉ヲ閉鎖シ各室ハ扉ヲ開放スヘシ其他監督者ノ指揮ヲ承ケ臨機ノ處分ヲナスヘシ

第三十三條 守衛ハ毎月取扱ヒタル事務報告表ヲ作り守衛副長ヲ經テ守衛長ニ差出スヘシ

第三十四條 守衛ハ擊劍柔術及ヒ唧筒消火栓取扱方ヲ練習スヘシ

○公用書類發送手續

第一條 使ノ差立ヲ左ノ四種ニ分ツ

一 特使

特使ハ特定ノ使人ヲ乗車セシメテ發送スルモノトス

二 急使

急使ハ自轉車又ハ車夫ヲシテ發送スルモノトス

三 專使

專使ハ一人ノ小使ヲシテ特ニ一通ヲ發送セシムルモノトス

四 並使

並使ハ一人ノ小使ヲシテ同時ニ數通ヲ發送セシムルモノトス

五 右第一、第二、第三ノ場合ニ於テモ止ムヲ得サルトキハ便宜一人ヲ

シテ數通ヲ發送セシムルコトヲ得

第二條 發送スヘキ書類ハ守衛副長ニ於テ之ヲ收受シ受付擔當ノ守衛ヲシ

テ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 書類ヲ發スルトキハ式ニ據リ先ツ發送簿ニ登記シタル後之ヲ發送

スルモノトス

但同時ニ多數ノ書類ヲ發送スルトキハ乙號發送簿ヲ用ユルコトヲ得

第四條 發送簿ヘ記入スルニハ發送ノ證へ番號、年月日、時刻、宛名、差出名

ヲ記シ取扱者使者共ニ捺印シ然ル後領收證へ番號年月日宛名又ハ書類何

通下記シ取扱者之ニ契印ス

第五條 前條ノ如ク記入シ了リタル後「領收證」ハ截斷シテ之ヲ使者ニ交付

シ使者ハ該書類ヲ送達シタルトキ其接手者ノ記名捺印並ニ時刻ノ記入ヲ

得テ之ヲ最初交付シタル守衛副長ニ返納シ守衛副長之ヲ發送ノ證ニ貼附シ

保存スルモノトス

○議場閉鎖心得

- 一 閉鎖ノ命アルトキハ議場第一號立番守衛ハ速ニ廊下第一號立番守衛ニ報シ直ニ第一號入口ヲ閉鎖シ廊下第一號立番守衛ハ第三號入口ヲ閉鎖ス又議場第二號立番守衛ハ廊下第二號立番守衛ニ報シ第七號入口ヲ閉鎖シ廊下第二號立番守衛ハ第五號入口ヲ閉鎖シ各監守スヘシ
- 二 閉鎖ノ命アルトキハ議場立番守衛ハ速ニ第一號第七號入口ヲ閉鎖シ外部入口監守ノ守衛ニ傳達シ各舊位ニ復スヘシ

○守衛禮式

- 第一條 守衛制規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ木式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス
- 第二條 本禮式中上斑ト稱スルハ守衛班長、守衛副長、守衛長、警務課長、

書記官長、及本院正副議長ヲ云フ

- 第三條 職務執行ノ爲メ止ヲ得サル場合ノ外上班ニ對シテハ必ス禮式ヲ行ヒ同班ハ互ニ禮式ヲ行フヘシ

- 第四條 禮式ヲ分テ最敬禮及敬禮ノ二種トシ又之ヲ分テ室内禮式及室外禮式ノ二種トナス

- 第五條 室内ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前底ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシメ左手ヲ垂下シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ
- 室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シ右手ニ帽ノ前底ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ左手ヲ垂下スヘシ

- 第六條 室外ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前底ノ右側ニ當テ掌ヲ稍々外面ニ向ケ肘ヲ

肩ニ齊シクシ左手ヲ垂下シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ敬スヘキ人ニ注目スヘシ

室外ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前底ノ右側ニ當テ左手ヲ垂下スヘシ

第七條 天皇、三后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、及皇族ニ奉對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

外國ノ皇帝、皇后、及皇族ニ於ルモ亦前項ニ同シ

第八條 內閣總理大臣、各省大臣、及正式勅使ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ

第九條 儀式祭典等ノ爲メ其場所ニ整列スルトキハ天皇、三后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、皇族ニ奉對シ又ハ其ノ儀式祭典ニ就キ禮式ヲ行フノ外ハ總テ敬禮セサルモノトス

第十條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ルモノ

ノミ相當ノ禮式ヲ行フヘシ

第十一條 警衛、消防、犯罪者看守、其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ禮式ヲ行フノ限ニ非ラス

第十二條 步行中物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ一手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當ツヘシ但守衛ハ佇立シテ之ヲ行フモノトス

第十三條 職務上公衆ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキハ必ス之ニ答禮スヘシ

第十四條 敬禮ハ階級ノ異ナル人二人以上ニ對シテハ其ノ最高級ノ人ニ對向シ行フモノトス

第十五條 官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘシ

但下班ノ室内ニハ脱帽セサルモ妨ケナシ

第十六條 上班ノ室内ニ入ラントスルトキハ其ノ入口ニ直立シ來意ヲ告ケ

指揮ヲ待ツヘシ上班入室ヲ許ストキハ其ノ席ヲ離ル、コト凡三四歩ノ所ニ於テ敬禮スヘシ若數名アルトキハ先ツ最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スヘキモノトス其ノ居室ヲ去ルトキモ亦同シ

第十七條 辭令書ノ類ヲ受クルトキハ授與者ノ席ヲ離ル、コト凡三四歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副ヘテ披見シ直チニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十八條 室内ニ於テ上班ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上班ニ呈スルトキハ前條ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ若シ返簡又ハ領收書等ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ
上班ヨリ命令諭告等ヲ受ケ或ハ事ヲ上班ニ陳述スルトキモ上班ニ對シテノ距離進退ハ亦前條ニ同シ

第十九條 上班居室ニ來ルトキハ一同椅子ヲ離レテ敬禮スヘシ上班居室ヲ去ルトキ亦同シ

第二十條 同班又ハ下班ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同班ナレハ椅子ヲ離レテ答禮シ下班アレバ其ノ儘答禮スベシ

第二十一條 室内ニ於テ公事ヲ談スルトキ下班ノ者ハ椅子ヲ離レ立テ姿勢ヲ正スヘシ

但上班許可スレハ著席スルモ妨ケナシ

第二十二條 行幸行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ佇立シ車駕五六歩前ニ近クトキ最敬禮ヲ行ヒ五六歩過キ去ル迄其姿勢ヲ保ツヘシ
皇族及ハ國ノ皇帝、皇后、皇族ニ於ルモ亦同シ

第二十三條 議院内廊下ニテ上班ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ姿勢ヲ正シ又ハ駐立ノ際上班其傍ヲ通過スルト

キハ上班ノ方ニ正面シ姿勢ヲ正シ禮意ヲ表スヘシ

第二十四條 上班ニ對スル毎日ノ禮式ハ其參院退院ノトキ又ハ特別ノ儀式アル場合ニノミ行ヒ其餘ノトキニ行遇トモ前條ノ式ニ依リ只禮意ヲ表スルモノトス

第二十五條 上班ト言語ヲ交ユルトキハ相當ノ敬禮ヲ行ヒタル後脱帽シ其姿勢ハ第六條第二項ニ依ル要談了ルトキハ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

第二十六條 乘車中上班ニ行遇フトキハ其儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フモ妨ケナシ

第二十七條 上班ト同行スルトキハ其左側或ハ後方ニ就クヲ禮トスレトモ爲ニ上班ニ不便ヲ與ヘ若クハ危險ノ恐アルトキハ適宜右側ニ就クモ妨ケナシ

第二十八條 狹隘ノ道路橋梁又ハ廊下階段等ニ於テ上班ニ出會シタルトキ

ハ佇立シテ其通過ヲ待ツヘシ若シ進行中ナルトキハ便宜立戻リ上班ヲシテ己ノ通過ヲ待タシメサルヲ禮トス

第二十九條 立番及受付ノ勤務ニ服スルトキハ室内ト雖トモ著帽スヘシ守衛班長以上ノ其勤務ヲ監督巡視スルトキモ亦同シ

第三十條 貴族院ノ守衛及議院へ出張ノ警察官吏ニ對シテモ亦本式ニ準シ禮式ヲ行フモノトス

○手帳及名刺ニ關スル心得

一 手帖ハ守衛タルノ證トスルモノナレハ正装ヲナシタルトキハ必ス携帶スヘシ若シ職務執行ノ際其ノ關係者之ヲ見ンコトヲ求メタルトキハ印章ノ部ヲ示スヘシ

二 職務上關係ノ事項ヲ見聞シタルトキハ之ヲ手帖ニ詳記スヘシ

手帳及名刺ニ關スル心得

三 手帖ニ記入スル事項ハ其ノ一件毎ニ〇印ヲ冒頭ニ附シ件別ノ分界ヲ明ニスヘシ

四 手帖ヲ裂キ取り又ハ汚損スヘカラス

五 手帖全葉書盡シタルトキハ之ヲ差出シ點檢ヲ受ケ新帖ト引換ヲ請フヘシ

六 手帖ハ公務外ノ事件ヲ記入スルヲ許サス

七 名刺ハ厚紙ニテ製シ左式ニ從テ明瞭ニ記載シ常ニ五枚以上手帖ノ間ニ插ミテ所持スヘシ

縦曲尺三寸

横曲尺

一寸三分

衆議院	氏名
守衛	

守衛班長ハ守衛ノ肩ニ守衛班長ノ四字ヲ記入スヘシ

八 職務執行ノ際關係者ヨリ名刺ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付スヘシ

九 公務上他官衙其ノ他ノ場所ニ至リ謁ヲ求ムル時ハ此名刺ヲ出スヘシ

○點檢

第一條 點檢ハ毎日執務時限前ニ之ヲ行ヒ守衛ノ容儀及携帶品ヲ點檢シ併テ當日執務ノ要領ヲ訓示スルモノトス

第二條 點檢ハ守衛長之ヲ執行シ號令司ハ守衛副長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 號令司ハ點檢時刻ニ至レハ呼子笛ヲ鳴ラシ點檢場ニ集メ一列或ハ二列ニ整頓シテ列ノ右翼ニ著クヘシ

第四條 號令司ハ全員集合シタルトキハ列ノ中央前若干歩ノ前ニ進ミ列ニ面シテ順次左ノ令ヲ下ス

點檢

一 「氣ヲ付ケト」

此令ニテ列員ハ姿勢ヲ正シ兩足ヲ整へ踵ヲ密接シテ體ヲ一線上ニ置キ兩爪先キハ凡ソ五寸扇形ニ開キ直立シテ手ヲ垂下シ肘ヲ伸シテ兩掌ヲ少シク外部ニ開キ頭ヲ正直ニシ前面ヲ直視スヘシ

二 「右へ準へ」

此令ニテ右翼員ヨリ二番以下ノ列員ハ肩ヲ並へ頭ヲ右へ向ケ右列員ノ胸部第二釦ヲ視正シク間隔ヲ取ル爲メ左手ヲ臑骨上部ニ當テ手甲ヲ前ニシ拇指ヲ後ニシ肘ヲ張リ右手ヲ垂下シ右翼ニ整頓スヘシ此時號令司ハ右翼ニアリテ整頓ヲ檢シ不整頓ナルトキハ「何番前又ハ何番後」ト呼ビ全ク整頓終レハ前位ニ復シ左ノ令ヲ下ス

但後列員ハ前列ニ伴テ整頓シ凡ソ二尺五寸ノ距離ヲ保ツヘシ

三 「直レ」

此令ニテ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ左手ヲ活潑ニ垂下スヘシ右終レハ號令司ハ舊位ニ復ス

四 「番號」

此令ニテ右翼員ヨリ順次ニ番號ヲ唱へ左翼員ニ終ル

但シ後列員ハ前列員ト同番號ト知ルヘシ

第五條 守衛長臨場ノ場合ハ號令司ハ若干歩前ニ進ミ左ノ令ヲ下ス

一 「禮式」

此令ニテ一齊ニ禮式ヲ行フ

第六條 守衛長ハ號令司ヲ從へテ列員ヲ點檢シ終ンハ列ノ中央前若干歩ノ處ニ占位ス此時號令司ハ左ノ令ヲ下ス

一 「手帖」

此令ニテ手帖ヲ右手ニ持チ肘ヲ直角ニ體ヲ付ケ掌ヲ延ハシテ名刺ト共

ニ開示スヘシ

二 「收メ」

此令ニテ元ニ收ムヘシ

三 「捕繩」

此令ニテ前項ニ準シ捕繩ヲ示スヘシ

四 「收メ」

此令ニテ元ニ收ムヘシ

五 「呼子」

此令ニテ右翼員ヨリ順次一聲ツ、鳴ラスヘシ

六 「收メ」

此令ニテ元ニ收ムヘシ

列員ニテ申告ヲナスヘキコトアルトキハ守衛長ノ六歩前ニ進ミ禮式ヲ

行ヒ申告終レハ右ニ回轉シテ舊位ニ復スヘシ

七 「分レ進メ」

此令ニテ一齊ニ禮齊式ヲ行フヘシ

第七條

整列中正副議長書記官長臨場アルカ又ハ數歩前ヲ通過スルトキハ守衛長ハ「禮式」ノ令ヲ下シ列員ト共ニ敬禮ヲナスヘシ

但シ守衛長居合セサルトキハ號令司代テ此令ヲ下スヘシ

第八條

二列ニテ點檢スルトキハ第四條第三項「直レ」ノ令終リタル後左ノ令ヲ下ス

一 「後列開ケ」進メ」

「後列開ケ」ノ令ニテ後列ニアル右翼員二名四歩後へ退步直立シテ整頓ノ基線ヲ示スヘシ「進メ」ノ令ニテ後列員ハ左足ヨリ五歩退步シ終リノ一步ヲ縮メ榻リ足ニテ右翼整頓線ニ入ルヘシ此場合ニハ令ナクシテ

第四條第二項ノ法ヲ取ルヘシ號令司ハ整頓ノ終ルヲ見テ左ノ令ヲ下ス
二 「直レト」

此令ニテ後列員ハ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ左手ヲ活潑ニ垂下スヘシ
第六條第六項迄ノ點檢終リタルトキハ左ノ令ヲ下ス

三 「後列閉メト進メ」

此令ニテ後列ハ舊位ニ復スヘシ

第九條 點檢外ノトキト雖トモ整列ヲ要スル場合ハ本則ニ依リ號令ヲ下シ
又ハ姿勢ヲ正スヘシ

○水管車操典(大正二年四月改正)

第一章 總 則

第一條 本操典ハ消火栓ノ使用方法ト其動作トニ熟達セシムルヲ以テ目的

トス

第二條 消火栓ノ開放ハ迅速ニシテ閉鎖ハ徐々タルヲ要シ且ツ多數同時ニ
閉鎖スルヲ避クヘシ

第三條 水管車ノ取扱ハ三名ノ消防員ト二個ノ水管ヲ纏絡セル一輛ノ水管
車(以下單ニ車ト稱ス)トヲ以テ編成スルモノトス

第四條 本操典ニ於テ前後左右ト稱スルハ車ノ後方ニ在テ之ニ對スル方向
ヲ謂フ

第五條 本操典ニ於テ車ノ定位ト稱スルハ左ノ位置ヲ謂フ

車頭ヲ前方ニシ消火栓ノ蓋ヲ連結セル反對縁ヨリ車尾ノ兩輪帶カ約二尺
二寸ヲ距テ轆木ノ後方延線カ其ノ縁ノ中央ニ對向スル位置トス
但シ單口消火栓ハ之ニ準スル位置トス

第六條 本操典ニ於テ消防員ノ車後位置ト稱スルハ左ノ整頓位置ヲ謂フ

- 一 第一消防員ノ車後位置ハ右方車輪ノ後方延線上ニ在リテ其ノ輪帶ニ正面シ之ト約六尺ノ距離ヲ距テタル位置トス
- 二 第二消防員ノ車後位置ハ轆木ノ後方延線上ニ在リテ車尾ニ正面シ第一消防員ノ左方ニ於ケル整頓線ノ位置トス
- 三 第三消防員ノ車後位置ハ左方車輪ノ後方延線上ニ在リテ輪帶ニ正面シ之レト約六尺ノ距離ヲ距テタル第二消防員ノ左方ニ於ケル整頓線位置トス

第七條 本操典ニ於テ消防員ノ車ニ對スル定位ト稱スルハ左ノ位置ヲ謂ヒ
 消防點ト稱スルハ車ノ前タルヲ例トス

- 一 第一消防員ノ定位ハ左方車輪ノ後方延線上ニ在リテ其ノ輪帶ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ距テタル位置トス
- 二 第二消防員ノ定位ハ轆木ノ右方ニ在リテ轆臂ニ正面シ之レト各約五

寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

- 三 第三消防員ノ定位ハ轆木ノ左方ニ在リテ轆臂ニ正面シ之ト各約五寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

第八條 本操典ニ於ケル動作ハ市部消防點檢規則ノ規定ニ準シテ之ヲ行フ
 但シ本條ニ於テ特別ノ規定アル場合ノ外ハ其ノ行進ノ步度ハ速歩トス
 本操典ニ於ケル號令ニシテ豫令及動令ノ區別アルモノニ就テハ豫令ハ音聲高長且ツ明確ニ動令ハ最モ活潑ニ高唱シ其ノ間適當ナル時間ヲ存スルモノトス

第九條 本操典ニ依リ消防員ニ對シ操練ヲ施行スルトキハ最初ニ消火栓ノ構造區別及水壓ニ關スル觀念ヲ知得セシムヘキモノトス

第十條 本操典ニ依リ消防員ニ對シ車ノ操練ヲ爲スニハ各消防員ノ車後位置ヲ順次交換セシメ三回ヲ以テ各動作ノ練習ヲ一周スルモノトス

第十一條 前條ノ規定ニ依リ消防員ノ位置ヲ交換スルニハ一回ノ動作ヲ終
リタル毎ニ「位置ヲ換ヘ」ノ號令ヲ用ユ

前項ノ號令アリタルトキハ第一消防員ハ一步後退シ左向ヲナシ前進シ第
六條ニ規定セル第三消防員ノ位置後ニ到リテ停立シ右向ヲナシ一步前進
シテ其位置ニ就キ第二及第三消防員ハ各右向ヲナシテ行進シ第二消防員
ハ第一消防員ノ位置ヘ第三消防員ハ第二消防員ノ位置ニ移リテ停立シ各
直チニ左向ヲナシテ位置ニ就ク

第十二條 既ニ第六條ノ車後位置及車ニ對スル定位ニ在ル消防員ニ對シテ
ハ特ニ番號號令ヲ用キサルコトアルヘシ

第二章 水管車操典

第一 水管車運動準備

第十三條 水管車ノ取扱ヒヲナサシムルニハ先ツ消防員ヲシテ第六條ニ規

定セル車後位置ニ整列セシムルモノトス車後整列ヲナサシムルニハ左ノ
號令ヲ下ス

集マレ

此號令ニテ指示セラレタル三名ノ消防員ハ駈歩ニテ各車後位置ニ就キ
右ニ準フテ整頓スルモノトス

第十四條 前條ノ規定ニ依リ車後整列ヲナシタル消防員ヲシテ車ニ對スル
定位ニ就カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ進メ
「進メ」ノ令ニテ第一消防員ハ直ニ半左向ヲナシテ前進シ第七條ニ規定
スル定位ニ到リ半右向ヲナシテ前進シ右方車輪ノ後方延線ヲ通過スレ
ハ左向ヲナシ車輪ノ右側ヲ經テ更ニ半左向ヲナシ定位ニ至リ半右向ヲ
ナシ第三消防員ハ左足ヲ一步左方前面ニ開キ右足ヲ之ニ引著ケ第二消

防員ト同時ニ行進シ之ト左右反對ニ同一ノ動作ヲナシテ各定位ニ就ク
第十五條 消防員車ニ對スル定位ニ在ルトキ車頭ヲ臑骨ノ高サニ扛ケシム
ルニハ左ノ號令ヲ下ス

轆木—扛ケ

「扛ケ」ノ令ニテ第一消防員ハ其儘停立ス

第二、及第三消防員ハ共ニ膝ヲ屈スルコトナク同時ニ上體ヲ俯シ兩掌
ヲ下シ轆臂ノ中央部ニ於テ其間約五寸ノ間隔ヲ取り轆臂ヲ上ヨリ握リ
同時ニ上體ヲ起シテ之ヲ臑骨ノ高サニ扛ク

第十六條 前條ノ姿勢ニ在ル消防員ヲシテ其ノ車頭ヲ地上ニ置カシムルニ
ハ左ノ號令ヲ下ス

轆木置ケ

「置ケ」ノ令ニテ第一消防員ハ其儘停立ス第二及第三消防員ハ木轆ヲ扛

ケタルトキハ上下反對ノ動作ヲナシテ靜カニ車頭ヲ地上ニ置キ同時ニ
上體ヲ起シテ停立ス

第十七條 第七條ニ規定セル車ニ對スル定位ニ在ル消防員ヲシテ車後位置
ニ復歸セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
車ノ後へ—進メ

「進メ」ノ令ニテ第一消防員ハ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシテ行進シ第
二消防員ハ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシテ前進シ右方車輪ノ前方延線
ヲ通過シ半右向ヲナシ同車輪ノ外側ヲ經テ第一消防員ノ右側ヲ一步通
過シ右向ヲナシテ行進シ其背後ヲ通過シ右向ヲナシ第三消防員ハ第二
消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲナシ左方車輪ヲ通過スレハ半
左向ヲナシ前進シ第一及第三消防員ハ左ニ廻轉シ第二消防員ハ一步前
進シテ各車後位置ニ整頓ス

第二 水管車ノ方向變換及行進

第十八條 車ノ方向變換及行進ノ動作ハ消防員ヲシテ第十五條號令ノ姿勢ヲナサシメタル後之ヲ開始スルモノトス

第十九條 車ノ方向ヲ右ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右ニ向ヲ換ヘテ進、メ止レ

「換ヘテ」ノ令ニテ第一消防員右手ヲ舉ケ其ノ掌ヲ前方ニシ車匣ノ左端後面上部ニ著ケ四指(拇指ヲ除ケ)ハ前方ニ屈シテ匣上ヲ握ル

「進メ」ノ令ニテ第二消防員ハ右足ヨリ第三消防員左足ヨリ半右方ニ進ミツツ右方ニ旋廻シ第一消防員ハ車匣ヲ前方ニ押シ左足ヨリ半右方ヲナシツツ右方ニ旋廻ス「止レ」ノ令ニテ各消防員停立シ第十五條ノ號令姿勢ニ復ス「止レ」ノ令ハ車ノ方向カ將ニ右向ヲナサムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第二十條 車ノ方向ヲ左ニ向ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左ニ向ヲ換ヘテ進メ、止レ

「換ヘテ」ノ令ニテ第一消防員ハ直ニ右向ヲナシ駈歩右車輪ノ後方延線上ニ移リ左向ヲナシ其ノ輪帶ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ距テテ停立シ前條第三項ノ規定ト左右反對ニ同一ノ動作ヲナシ左指ニテ匣上ヲ握ル

「進メ」ノ令ニテ各消防員前條ノ規定ト左右反對ニ同一ノ動作ヲナシテ左方ニ旋廻ス

「止レ」ノ令ニテ第一消防員ハ本條第三項ノ規定ト左右反對ニ同一ノ動作ヲナシテ定位ニ復シ各消防員第十五條號令ノ姿勢ニ復ス
「止レ」ノ號令ハ前條ノ規定ニ準シテ下スモノトス

第二十一條 車ノ方向ヲ半右左ニ向ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半右(左)へ向ヲ換へー進メ、止レ

前項ノ動作及「止レ」ノ令ハ前二條各項ノ規定ヲ援用ス但シ「止レ」ノ號令ハ車ノ方向カ將ニ半右(左)向ヲナサムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第二十二條 車ノ方向ヲ背面ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
半輪ニ右へー進メ、止レ

前項ノ動作ハ第十九條各項ノ規定ヲ援用ス但シ「止レ」ノ號令ハ車ノ方向カ將ニ背面向ヲナサムトスルトキ下スモノトス

第二十三條 車ヲ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前へー進メ

「前へー」ノ令ニテ第一消防員ハ第十九條「換へー」ノ令ト同一ニ匣上ヲ握リ「進メ」ノ令ニテ各消防員同時ニ左足ヨリ行進ヲ始ム

第二十四條 行進中ニ在ル車ノ方向ヲ右左ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)ニ向ヲ換へー進メ、前へ

前項ノ動作ハ第十九條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス但シ「前へ」ノ令ハ車ノ將ニ右(左)向ヲナサムトスルトキ下シ此ノ令ニ依リ各消防員新方向ニ前進ス

左ニ向ヲ變ユルトキハ「前ノ」令ニテ第一消防員ハ定位ニ復シ右手ニテ匣上ヲ握ル

第二十五條 行進中ニ在ル車ノ方向ヲ半右左ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

半右左へ向ヲ換へー進メ、前へ

前項ノ動作ハ第二十一條及前條ノ規定ヲ援用ス

第二十六條 行進中ニ在ル車ノ方向ヲ背面向ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪ニ右ヘ一進メ、前ヘ

前項ノ動作ハ第二十二條及第二十四條ノ規定ヲ援用ス

第二十七條 車ヲ後退セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

後ヘ一進メ

「後ヘ」ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一步左方前面ニ開キ右足ヲ之レニ引著ケツ、駈歩前進シ左方車輪ノ一步通過スレハ右向ヲナシ一步前進シ轆木ヨリ約五寸ノ距離ヲ隔テタル位置ニ停位シ右向ヲナシ左臂ヲ少シク屈シ左掌ヲ下ニシ腰部ノ左側ニ於テ轆木ヲ握リ上體ヲ稍前方ニ傾ケ右掌ヲ下ニシ其ノ手ヲ前方ニ伸シ轆木ノ根端ヨリ約五寸ヲ距テタル左方ノ轆木支柱ヲ握ル

第二消防員ハ左手ヲ放チ其ノ掌ヲ上ニシ轆臂ヲ下ヨリ握リ換ヘ右手ヲ放チ右足ヲ一步廣ク右方前面ニ開キ左掌ヲ轆臂ノ左方ヘ滑走セシメツ

ツ左足ヲ右足ニ引著ケ車頭前ニ移リ左掌ノ下ニ向換ヘツ、左回轉ヲナシ一步右方ニ移リ右方轆臂ノ中央ニ正面シ之ハ約五寸ノ距離ヲ距テツツ右掌ヲ下ニシ轆臂ノ中央部ニ於テ左掌ト約五寸間隔テ置キ上ヨリ轆臂ヲ握ル

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲナシテ左轆臂ヲ握ル

第二十八條 行進中ニ在ル車ヲ停止スルニハ左ノ號令ヲ下ス
止レ下

此ノ號令ニテ各消防員停立シ第十五條號令ノ姿勢ニ復ス
前項ノ場合ニ於テ特ニ「其儘」ノ令ナク單ニ「止レ」ノ號令アリタルトキハ第一消防員ハ上體ヲ正シツ、兩手ヲ放チ右向ヲナシ一步前進シ左向ヲナシ駈歩前進シ左方車輪ヲ一步通過シテ左廻轉ヲナシ第二及第三消

防員ハ同時ニ前條ノ場合ト前後左右反對ニ同一ノ動作ヲナシテ各消防員第十五條號令ノ姿勢ニ復スルモノトス

第三章 消火栓使用法

第一 放水準備

第二十九條 放水準備ヲナサシムルニハ先ツ各消防員ヲシテ車ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一 放水備方ニ始メ

「始メ」ノ令ニテ第一消防員ハ半右向ヲナシ右足ヲ一步前方ニ開キ左足ヲ之ヲ引著ケツ、半右向ヲナシ轆木ノ後方延線上ニ於テ車尾中央ニ正面シ之レト約五寸ノ距離ヲ隔テ停立ス

第二消防員ハ左向ヲナシ一步前進シ更ニ右向ヲナシ車ノ右側ヲ通過シ消火栓ノ右側中央部ニ至リ右向ヲナシ之レニ正面シ約五寸ノ距離ヲ隔

テ停位ス第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲナシ消火栓ノ左側中央部ニ於テ第二消防員ニ準シ停位ス

二 水管ニ著ケ

「著ケ」ノ令ニテ第一消防員ハ左手ニテ車匣ノ鋼鎖匙ヲ廻シ右手ニテ鎖匙ヲ外シ匣蓋ヲ開キ兩手ニテ消火栓鍵及水管螺旋廻ヲ取出シテ左手ニ持チ左顧シテ之レヲ第三消防員ニ渡シ次ニ兩掌ヲ下ニシ左手ハ消火栓螺旋廻ノ螺旋部ヨリ約一尺ヲ右手ハ左手ヨリ約一尺五寸ヲ隔テ、兩手ニテ之ヲ持チ匣中ヨリ取出シ右顧シテ之ヲ第二消防員ニ渡シ右手ニテ車蓋ヲ閉チ更ニ上體ヲ稍左方ニ傾ケ兩手ニテ左方輻止ヲ外シ上體ヲ正シ半左向ヲナシ左足ヲ一步廣ク左方ニ開キ右足ヲ之ニ引著ケツ、左車輪ノ後方延線ヲ越エ半右向ヲシツ、前進シ車輪ノ左側ヲ經テ半右向ヲナシ第三消防員ノ車ニ對スル定位ニ至リ半左向ヲナシテ停立シ膝ヲ屈

スルコトナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ下ニシ左轆臂ノ中央部ニ於テ其ノ間約五寸ノ間隔ヲ置キ轆臂ヲ上ヨリ握リ上體ヲ起シツ、車頭ヲ臆骨ノ高サニ扛ケ直チニ右手ヲ放チ其掌ヲ下ニシ轆臂トノ間約一尺五寸ノ距離ヲ隔テ、轆木ヲ握リ同時ニ右足ヲ一步後方ニ開ク

第三消防員ハ左足ヲ一步左方前面ニ開キ第一消防員ヨリ左手ニテ鍵及水管螺旋廻ヲ受取り上體ヲ俯シ鍵ヲ右手ニ移シ消火栓ノ蓋ヲ開キ鍵ヲ其ノ儘トシ兩脚ヲ屈シ右膝ヲ消火栓左側縁ニ著ケ水管螺旋ヲ右手ニ移シ消火栓左口ノ覆冠ヲ脱シ其ノ螺旋廻ヲ右脚外側ニ置キ左手ニテ第一水管結合環部ヲ第二消防員ヨリ受取り右手ヲ加ヘ之ヲ消火栓ノ左口ニ結合シ右手ニテ水管螺旋廻ヲ取り之ヲ締メ體ヲ起シ其ノ螺旋廻ヲ兩手ニテ左腰ニ佩ヒ左足ヲ半歩後方ニ移シ右足ヲ之レニ引著ケツ、左向ヲナシ車尾ニ正面シ上體ヲ前方ニ傾ケ兩手ニテ水管ヲ輜ヨリ引出シ水管

結合部際ヨリ約二尺ヲ消火栓内ニ溜置シ右掌ヲ下ニシ水管ヲ握リタル儘上體ヲ正シ第二消防員ノ左方ニ頓整シ左手ハ之ヲ垂下シテ停立ス第二消防員ハ右足ヲ一步左方前面ニ開キ兩掌ヲ上ニシ右手ハ螺旋廻ノ螺旋部ヨリ約五寸左手ハ右手ヨリ約一尺五寸ヲ距テタル上部ヲ握リ第一消防員ヨリ螺旋廻ヲ受取り膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ消火栓ノ右側ニ於テ螺旋廻ノ螺旋部ヲ前方ノ消火栓縁外ニ出シ車尾ノ方向ニシテ之ヲ地上ニ置キ第一水管ノ結合環部際ヲ右手ニ把リ第一消防員カ車頭ヲ扛ケ右足ヲ一步後方ニ開クヲ俟チ左手ヲ加ヘ水管ヲ輜ヨリ引出シ右手ニテ其結合環部ヲ第三消防員ニ渡シ上體ヲ起シツ、右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ左掌ヲ上ニシ螺旋廻ノ把手ヨリ約七寸下ヲ右掌ヲ下ニシ左手ヨリ約一尺ヲ握リテ螺旋廻ヲ消火栓ノ輜軸ニ箠メ兩手ヲ放チ上體ヲ起シ直チニ半右向ヲナシ一步前進シテ

第一水管ノ右側ニ移リ更ニ半右向ヲナシ車尾ニ正面シテ停立ス
三、「水管—擴メ」

「擴メ」ノ令ニテ第一消防員ハ車ヲ挽キ駈歩消火點ノ方向ニ前進シツ、水管ヲ延長ス

第三消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ前方ニ傾ケ兩手ニテ交互ニ水管ヲ引キツ、車ニ尾行シ第一消防員ノ水管ヲ延長スルヲ補助シ輜ノ水管カ約十尺ヲ剩スニ至レハ第一消防員ニ對シ「止レ」ト注意ス

第一消防員ハ第三消防員ノ「止レ」ノ注意ニ依リ右足ヲ一步後方ニ開キタル儘停立シ第三消防員カ第二水管ヲ輜ヨリ離脱スルヲ俟テ右方ニ旋回シツ、車ノ方向ヲ全ク右方ニ向ケ換へ更ニ二步前進シ停立シ膝ヲ屈スルコトナク車頭ヲ地上ニ置キ上體ヲ起シ左向ヲナシ一步前進シ更ニ左向ヲナシテ前進シ左車輪ヲ通過シテ左向ヲナシ更ニ半左向ヲナシツ

ツ一步前進シ轅木ノ後方延線上ニ至リ半左向ヲナシテ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ、停立シ左手ニテ車ノ匣蓋ヲ半開シ右手ニテ管鎗ヲ取出シ左手ヲ放テ匣蓋ヲ閉シ右掌ヲ上ニシ管鎗ノ結合環ヨリ約四寸上部ヲ握リ結合環部ヲ下ニシ其ノ頭部ヲ約四十五度ニ上ケ右腋間ニ挾持シ其ノ肘ヲ屈シテ之ヲ脇ニ着ケ右廻轉ヲナシテ前進シ第三消防員ノ正面一步前ニ至リテ停位シ左向ヲナシ第三消防員ニ正面シ右掌ヲ下ニシツ、其手ヲ伸シ管鎗ヲ肘外ニ出シ左掌ヲ上ニシ右手ト交換シ右掌ハ之ヲ上部ニ滑走セシメツ、其ノ放水管部下ヲ握リ左拳ヨリ約四十五度高ク舉ケ右足一步後方ニ開キ管鎗ヲ第三消防員ノ把持セル第二水管ニ結合シ更ニ左掌ヲ上ニシ右掌ヲ下ニシテ兩手ノ位置ヲ互ニ交換シテ管鎗ヲ持テ換へ左肘ハ自然ニ屈シ左足ヲ右足後方ニ移シテ左回轉ヲナシ消火點ニ向テ約十尺前進シテ停立シ右足ヲ一步後方ニ開キ後

顧シテ第三消防員ノ補助ニ依リ第二水管ノ撚レタルヲ直シテ正面シ左肘ヲ自然ニ屈シ其ノ手ヲ體ノ中央前約一尺ノ所ニ移シ右肘ヲ屈シ其ノ手ヲ脇ニ接着シテ消火點ニ注目ス

第三消防員ハ第一消防員ト同時ニ停立シ第二水管ヲ輜ヨリ右足外側ニ外出シ全ク輜ヨリ離脱シ其ノ結合環ヲ右手ニ持チ上體ヲ正シ右手ヲ先ニシ兩拳ヲ接着シテ第二水管ノ結合環覆布部ヲ握リ兩肘ヲ脇ニ着ケ消火點ノ方面ニ正面シ第一消防員カ一步前ニ來リ右足ヲ一步後方ニ開クト同時ニ左足ヲ一步前方ニ開キ結合環口ヲ約四十五度上ニ向ケ換ヘ第一消防員ニ管鎗ヲ結合セシメテ之ヲ渡シ其ノ儘右向ヲナシ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ稍右方ニ俯シ第二消防員ト協力シテ第一水管ノ方向ヲ更ニ上體ヲ稍左方ニシ兩手ニテ第一消防員ノ方向ニ於ケル水管ノ撚レタルヲ直シ左足ヲ右足ニ引着ケツ、上體ヲ起シテ右向ヲナシ消火栓ニ

正面シテ停立ス

第二消防員ハ第三消防員ノ前進スルヲ俟チ右足ヲ一步前方ニ開キ上體ヲ俯シ右手ヲ先ニシ左手ヲ加ヘ第一水管ヲ握リ右脚ヲ伸シ左脚ヲ屈シ消火栓内ニ溜置セル水管ノ伸ルヲ防止シ第一消防員ノ停車スルヲ俟チ兩手ヲ放チ左脚ヲ伸シ其ノ儘左廻轉ヲナシ兩手ニテ消火栓内ニ於ケル水管ヲ引出シツ、之ヲ消火栓ノ左側ヨリ彎曲形ニシテ消火點ノ方向ニ伸シ其ノ儘自然ニ右回轉ヲナシ第二消防員ト協力シテ前方ニ於ケル水管ノ撚レタルヲ直シ上體ヲ起シツ、左廻轉ヲナシ右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ半左向ヲナシ一步前進シテ消火栓ノ左足中央ニ移リ右ニ回轉シツッ消火栓ト約五寸ノ距離ヲ隔テ、之ニ正面シ兩掌ヲ上ニシ消火栓螺旋廻ノ兩把手ヲ下ヨリ握リ僅カニ之ヲ旋回シテ消火栓弁ノ故障有無ヲ試ミ其儘停立ス

第二、放水始及止

第三十條 放水ヲ開始シ又ハ之ヲ止メシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、「始メー」

此ノ號令ニテ第一消防員ハ後顧シテ「始メー」ト復唱シ第三消防員ニ號令ヲ傳へ第三消防員カ第二消防員ニ號令ヲ傳唱スルヲ俟テ正面ス
 第三消防員ハ第一消防員ノ復唱ヲ受ケ其ノ號令ヲ第二消防員ニ傳送ス
 ルダメ「始メー」ト復唱シ直ニ左向ヲナシテ更ニ半左向ヲナシ駈歩水管上ヲ越ヘテ前進シ左方車輪ノ後方延線ヲ經テ半右向ヲナシ車輪ノ左側ヲ通過シ半右向ヲナシ第三消防員ノ車ニ對スル定位ニ至リ第二十九條第二號々令ニ於ケル第一消防員ノ姿勢ニ準シ車ヲ扛ケ右方ニ旋回シツ、車ノ方向ヲ全ク右方ニ向ケ換ヘ車ヲ挽キ水管ノ右側ヲ前進シ消火栓ノ約三尺前方ニ至リ右ニ旋回シツ、水管上ヲ越ヘ左車輪ハ水管ノ左方

ニ涉ラシメテ車ヲ全ク前方ニ向ケ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ車ヲ第五條ノ定位ニ置キ兩手ニテ水管ヲ左轅臂上ニ乗セ上體ヲ起シ水管ノ左側ヲ駈歩前進シ第一及第二水管トノ結合部ヲ一步通過シ右回轉ヲナシテ停立シ水管ト約五寸ノ間隔ヲ取り消火栓ニ正面シテ位置ス
 第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ニ依リ直ニ右足ヲ一步後方ニ開キ兩脚ヲ屈シ上體ヲ稍前方ニ傾ケ右手ヲ引キ左手ヲ伸シツ、交互ニ兩手ヲ把リ換ヘ螺旋廻ヲ右方ニ旋回シテ消火栓弁ヲ全ク開放シ兩手ヲ放チ體ヲ起シツ、右足ヲ左足ニ引着ケ其ノ位置ニ停位ス但シ單口消火栓ハ雙口消火栓ト反對ニ旋回シテ開放スルモノトス

二、「止メー」

此ノ號令ニテ第一及第三消防員ハ本條第三項ノ規定ニ準シ第一消防員ヨリ順次「止メー」ト復唱シテ號令ヲ第二消防員ニ傳送ス

第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ニ依リ兩掌ヲ上ニシテ消火栓螺旋廻ノ兩把手ヲ下ヨリ握リ左足一步後方ニ開キ弁ヲ開放シタルトキハ同一ノ姿勢ニ準シ左右反對ニ同一ノ動作ヲナシ螺旋廻ヲ徐々左方ニ旋回シテ弁ヲ全ク閉鎖シ兩手ヲ放シ體ヲ起シツ、左足ヲ右足ニ引着ケ其ノ位置ニ停立ス

第一消防員ハ噴水ノ止ルト同時ニ右足ヲ左足ニ引着ケ左手ニテ管鎗ヲ起シ右手ヲ垂レツ、之ヲ下方ニ滑走セシメ左手ヲ放チ管鎗ノ結合部ヲ右足外側ニ卸シテ垂直ナラシメ右掌ヲ下ニシ輕ク頭部ヲ支ヘ左手ハ自然ニ垂下シテ消火點ニ正面ス

第三、放水準備解崩

第三十一條 放水準備ヲ解崩シ水管ヲ車ニ卷カシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、「放水備方―崩セ」

「崩セ」ノ令ニテ第一消防員ハ右足ニテ水管ノ端末ヲ踏ミ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ管鎗ヲ半左方ニ傾ケ右掌ヲ上ニシ管鎗ノ結合環ヨリ約二寸上部ヲ左掌ヲ下ニシ約一尺ノ間隔ヲ置キテ管鎗ヲ握リ之ヲ左方ニ旋回シテ水管ヨリ離脱シ管鎗ヲ右腋間ニ挾持シ肘ヲ脇ニ着ケ右廻轉ヲナシ水管ノ左側ヲ前進シ左車輪ヲ通過シ左向ヲナシ更ニ半左向ヲナシツ、一步前進シテ停立シ半左向ヲナシ轆木ノ後方延線上ニ於テ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ左手ニテ匣蓋ヲ開キテ其ノ手ヲ放テ右手ニテ管鎗ノ頭部ヲ右方ニ之ヲ匣内ニ納メ次ニ第二十九條第二號々令ニ依リ渡シタルトキハ同一ノ姿勢ニ準シ消火栓螺旋廻ヲ第二消防員ヨリ受取リ其ノ把手ヲ右方ニシ匣外ニ出シテ匣内ニ納メ次キニ第三消防員ヨリ鍵及水管螺旋廻ヲ受取リ納匣シ右手ニテ匣蓋ヲ閉チ左

手ニテ鋼鎖匙ヲ上ニ向ケ右手ニテ鎖匙ヲ箠メ左手ニテ鋼鎖匙ヲ締メ左足ヲ一步左方後面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ車ニ對スル定位ニ就ク
 第二消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二十九條第二號々令ニ於テ消火栓螺旋廻ヲ其弁軸ニ箠メタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ兩手ニテ拔キ取り螺旋部ヲ兩足間前ニ置キ上體ヲ起シ右手ヲ放チ左手ハ其儘螺旋廻ヲ垂直ニ持チ其肘ヲ屈シ之ヲ自然ニ協ニ着ケ第一消防員カ匣蓋ヲ開クヲ俟チ左手ヲ上ニ舉ケツ、右手ヲ加ヘ第二十九條第二號々令ニ於テ螺旋廻ヲ受取タルトキト同一ニ持テ右足ヲ一步右方ニ前面ニ開キ右顧シテ其ノ螺旋廻ヲ第一消防員ニ渡シ右足ヲ左足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ第三消防員カ鍵及水管螺旋廻ヲ第一消防員ニ渡シ左足ヲ右足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ左向ヲナスト同時ニ右向ヲナシテ前進シ第十四條ニ規定セル進路ヲ經テ車ニ對スル定位ニ就キ第十五條號令ニ於ケル

ト同一動作ヲナシ第三消防員ト協力シ轆臂ヲ腕骨ノ高ニ扛ク
 第三、消防員ハ左足ヲ一步左方ニ開キ第二水管ニ跨リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩手ニテ水管結合部ヲ解放シ上體ヲ起シツ、左足ヲ水管ノ左方右足尖前ニ移シ第一水管ノ左側ヲ前進シ消火栓ノ左側中央部ニ至リテ停立シ左向ヲナシ兩手ニテ水管螺旋廻ヲ腰部ヨリ拔キ取り右手ニ持チ第二十九條第二號々令ニ於テ水管ヲ附着シタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ右脚ヲ屈シ水管螺旋廻ニテ結合部ヲ緩メ之ヲ左手ニ持チ換ヘ其ノ螺旋部ヲ右方ニ向ケ消火栓縁ト並列セシメテ左足尖前ノ地上ニ置キ水管結合部ヲ兩手ニテ解放シ之ヲ左足外側ノ地上ニ置キ兩手ニテ消火栓左口ノ覆冠ヲ堅ク箠メ左手ニ水管螺旋廻ヲ持チ右脚ヲ伸シ上體ヲ右方前面ニ傾ケ右手ニテ消火栓鍵ノ把手ヲ握リ消火栓蓋ヲ閉シ其ノ鍵ヲ拔キ取り之ヲ左手ニ移シツ、上體ヲ起シ左顧シテ左手ニ持チタル

鍵ト螺旋廻トヲ第一消防員ニ渡シ左足ヲ右足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ直ニ左向ヲナシテ前進シ第二消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲナシ兩手ニテ左轆臂上ノ水管ヲ左方ノ地上ニ卸シ第二消防員ノ動作ニ準シテ之ト同時ニ協力シテ轆臂ヲ髑骨ノ高サニ扛ク

二、「水管」卷ケ」

「水管」卷ケ」ノ令ニテ第一消防員ハ第十九條「換へ」ノ令ト同一姿勢ヲナシ上體ヲ稍前方ニ傾ケ次ニ「卷ケ」ノ令ニテ他ノ消防員ト同時ニ車ヲ押シツ、水管ノ左側ヲ駈歩前進シ第二及第三消防員カ第二水管ノ端末ニ達スレハ速歩ニ移リ約三步前進シテ他ノ消防員ト同時ニ停立シ右手ヲ放チツ、上體ヲ正シ半右向ヲナシテ一步前進シ第二水管ノ左側ニ移リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニテ端末ノ水管結合環ヲ持チ半左向ヲナシテ車尾ニ正面シ左手ヲ加へ兩手ニテ之レヲ輜軸ノ革環ニ箠

入シ兩掌ヲ相對セシメ水管ヲ兩手ニ握リ第二消防員ノ輜ヲ回轉スルニ準ヒ兩手ニ水管ヲ引キ兩手ヲ滑走セシメテ徐々ニ後進シツ、水管ヲ平等ニ輜ニ卷キ第三消防員ノ注意ニテ停車スルヲ俟チ兩手ヲ放チ上體ヲ起シ右回轉ヲナシテ第二水管ノ左側ヲ前進シ第一水管ノ結合環約五寸左側ニ至リ停立シテ左向ヲナシ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩手ニテ其結合環部ヲ把リ半左向ヲナシツツ上體ヲ起シ右手ヲ先ニシ兩拳ヲ接着シテ結合環ノ覆布部ヲ握リ兩肘ヲ脇ニ着ケ第二消防員カ一步前ニ來リ半右向ヲナスヲ俟チ直チニ左足一步前方ニ開キ第一水管ヲ第二水管ニ結合セシメテ之ヲ受取り膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ結合部ヲ右足前ニ置キ半左向ヲナシツ、上體ヲ起シ右足ヨリ第二水管ノ左側ト前進シ車尾ニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二水管ト同一動作ニ依リ水管ヲ卷キ始メ第一水管ヲ輜ニ卷キ終リ兩手ヲ放チ上

體ヲ左方ニ傾ケ兩手ニテ輅止ヲ施シ上體ヲ正シツ、之ヲ起シ第三消防員カ車ヲ其ノ位置ニ移スニ準ヒ擦足シテ轆木ノ後方延線上ニ移リ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ停立ス

第二消防員ハ車ヲ挽キ第三消防員ト同時ニ水管ノ右側ヲ駈歩前進シ第二水管ノ端末ニ至レハ速歩ニ移リ約三步前進シテ停立シ第三消防員カ車頭前ニ於テ右廻轉ヲナスヲ俟チ兩手ヲ放チ右廻轉ヲナシ約一步前進シテ右方ニ於ケル輅ノ把手ニ正面シ之ト約一尺ノ距離ヲ距テ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニ其ノ把手ヲ握リ第一消防員カ第二水管ノ結合環ヲ輅ノ革環ニ箆メ終ルヲ俟チ兩手ニテ交互ニ把手ヲ引キツ、輅ヲ廻轉シテ徐々ニ前進シ第一消防員ト協力シテ第二水管ヲ輅ニ卷キ第三消防員ノ注意ニテ停車スルヲ俟チ把手ヲ放チ上體ヲ起シ半左向ヲナシ第二水管ノ結合環約五寸右方ニ至リ膝ヲ屈スルコトナク上體

ヲ俯シ右手ニ之ヲ把リテ半左向ヲナシツ、上體ヲ起シテ前進シ第一消防員ノ一步前ニ至リテ停立シ半右向ヲナシテ第一消防員ニ正面シ之ト同時ニ左足ヲ一步前方ニ開キ左手ニテ水管結合環ノ覆布部ヲ握リ右手ニテ第一消防員ノ把持セル結合環ニ結合シテ兩手ヲ放チ右廻轉ヲナシテ前進シ右車輪ノ後方延線ヲ經テ半左向ヲナシ車側ニ沿フテ行進シ之ヲ一步通過シテ停立シ左向ヲナシ一步前進シ更ニ左向ヲナシ擦足シテ舊位置ニ復シ前ニ第二水管ヲ卷キタルトキト同一ノ動作ニ準シ第一水管ヲ輅ニ卷キ終リ第一消防員カ水管ヲ放チ輅止ヲ箆メ終ルヲ俟チ同時ニ把手ヲ放チ上體ヲ起シ第三消防員カ車ヲ其ノ位置ニ移スニ準ヒ擦足シテ位置ヲ移シ右方ニ於ケル輅ノ把手ニ正面シ之ト約一尺ノ距離ヲ隔テ、停立ス

第三消防員ハ水管ノ左方ニ於テ第二消防員ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ

ナシテ停立シ直ニ第二十七條「後へ」ノ令ト同一動作ヲナシ車頭前ニ於テ右廻轉ヲナシ一步ヲ左方轆木ノ延線上ニ移シ轆木ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ、左掌ヲ下ニシ轆木ヨリ約五寸ノ間隔ヲ置キ右轆臂ヲ上ヨリ握リ右手ヲ其ノ儘滑走セシメテ左手ニ準スル間隔ノ位置ニ移シ第二消防員カ輜ヲ廻轉スルニ準ヒ徐々ニ前進シテ車ヲ後退セシメ第二水管カ車尾ヨリ約六尺ヲ剩スニ至レハ他ノ消防員ニ「ツゲー」ト注意シテ停車シ第二消防員カ第二水管ノ結合環ヲ右手ニ把リ上體ヲ起シ前進スルニ準ヒ車ヲ後退セシメ第二消防員カ第一消防員ノ一步前ニ至リ停立スルニ至レハ停車シ第二消防員カ再ヒ輜ノ把手ヲ把ルヲ俟チ徐々ニ前進シテ車ヲ後退セシメ第一水管ヲ輜ニ卷キ終レハ停車シ第一消防員カ輜止ヲ施シ上體ヲ起スヲ俟チ車ヲ其ノ位置ニ移シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ車頭ヲ徐々ニ地上ニ置キ上體ヲ起シ其ノ位置ニ停立ス

第三十二條 各消防員ヲ車ニ對スル定位ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「定位へー進メ」

「進メ」ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一步左方後面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ第二消防員ハ右廻轉ヲナシ一步前進シ第三消防員ハ一步右方ニ移リ更ニ一步前進シテ左轆臂ヲ越へ右廻轉ヲナシ各消防員擦足シテ車ニ對スル定位ニ就ク

第四章 應急操法

第三十三條 各消防員車ニ對スル定位ニ在ルトキ應急取扱方ヲナサシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス但シ本條ノ動作ハ迅速ニシテ駈歩トス

「急キ備へー」

此ノ號令ニテ各消防員第二十九條各號號令ニ規定セル動作ヲ順次迅速ニ行ヒ放水準備ヲナス

「始メー」

此ノ號令ニテ各消防員第三十條第一號々令ニ規定セル動作ヲ迅速ニ行
ヒ放水ヲ開始ス

「止メー」

此ノ號令ニテ各消防員第三十條第二號々令ニ規定セル動作ヲ迅速ニ行
ヒ放水ヲ停止ス但シ消火栓弁ノ閉鎖方ニ限り徐々トス

「卷ケー」

此ノ號令ニテ各消防員第三十一條各號號令ニ規定セル動作ヲ順次迅速
ニ行ヒ水管ヲ卷ク

○守衛休暇規則 (明治二十八年十二月制定明治四十年五月改正)

第一條 守衛一ケ年以上皆勤シタルトキハ慰勞ノ爲ニ週間ノ休暇ヲ與フ

第二條 皆勤日數ハ左記ノ日ヨリ起算シ三百六十五日ヲ一年トス

- 一 新任ノ者ハ就務ノ日
- 一 闕勤ノ者ハ出勤ノ日
- 一 休暇證ヲ付與セラレタル者ハ付與ノ日
- 一 懲戒處分ヲ受タル者ハ其翌日

第三條 左ノ日數ハ勤務日數ニ算入ス

- 一 非番
- 一 父母祭日
- 一 職務上ノ負傷治療
- 一 慰勞休暇

第四條 左ノ日數ハ勤務並ニ闕勤日數ニ算入セス

- 一 遠慮及忌引

一點呼及復習

一 休職

第五條 皆勤者ニハ左ノ休暇證ヲ付與ス

休暇證

守衛氏名

壹年間皆勤ニ付爲慰勞三週間休暇ノ證トシテ之ヲ付與ス

年月日

衆議院

裏

休暇日限

自何月何日
至何月何日

第六條 休暇證ヲ付與セラレタル者休暇セントスルトキハ守衛長ヲ經由シ

テ警務課長ノ承認ヲ受ク可シ

但休暇ハ其ノ總日數ヲ分チテ數次ニ爲スコトヲ得

第七條 休暇證ヲ付與シタル後ト雖トモ勤務ノ都合ニ依リ之ヲ中止スルコトアルヘシ

第八條 休暇證ハ付與ノ日ヨリ起算シ一ケ年限リ有效ノモノトス

但第七條ノ場合ニ於テハ中止日數ニ應シテ之ヲ延期ス

休暇證付與ノ後懲戒處分ヲ受ケタルモノハ其效力ヲ失フモノトス

第九條 有效ノ休暇證ヲ遺失シ若クハ滅失シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

(明治三十年十月勅令第三百五十五號、改正大正五年十二月二十五日勅令第二百六十一號)

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制別表ノ通定ム

貴族院衆議院守衛ノ給與品及貸與品ニ關スル規定ハ貴族院書記官長衆議院書記官長各之ヲ定ム

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

守衛長守衛副長守衛服制圖例

名	稱	地質	日章	眼庇	頤	紐	横	章	製	式	形狀
正	守衛長	濃紺絨	金色徑一寸五分	裏表革 裏萌黃	三圓形 三寸五分	黑革幅三分 三釦 銀色	大線五分打 小線三分 頂端線一分	大線幅五分 小線幅三分 頂端線一分	下部高一寸 八分小線 各小線間	如圖	
守衛副長	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
守衛同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

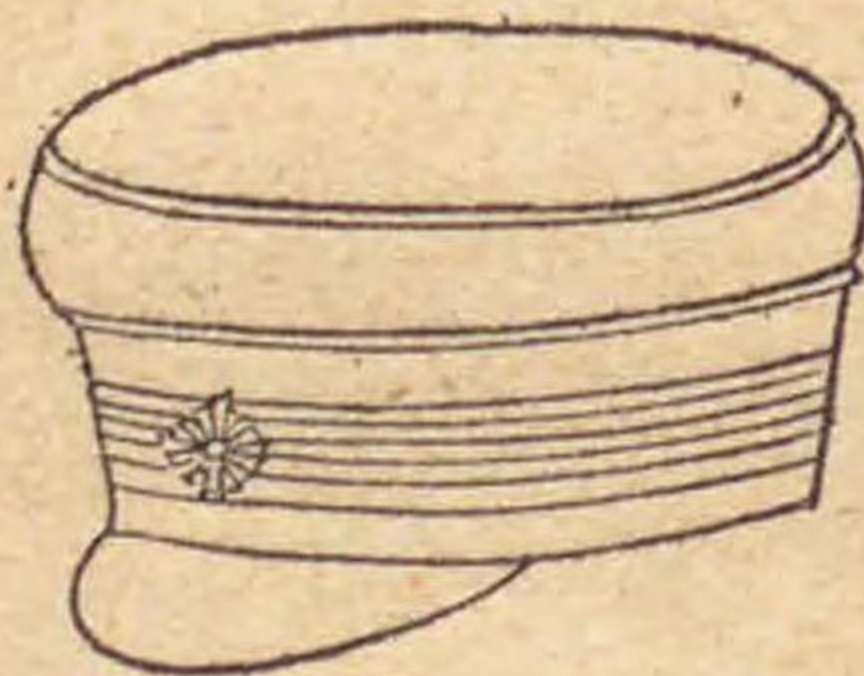
貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

名	稱	地質	日章	眼庇	頤	紐	横	章	製	式	形狀
正	守衛長	濃紺絨	金色圓形 內徑一寸五分	大線幅 平織金	上緣側ハ 線一條大	大線幅五分打 平織金	大線幅五分 平織金	大線幅五分 平織金	袖長一寸四分 腕關節ニ止ル	如圖	
守衛副長	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
守衛同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

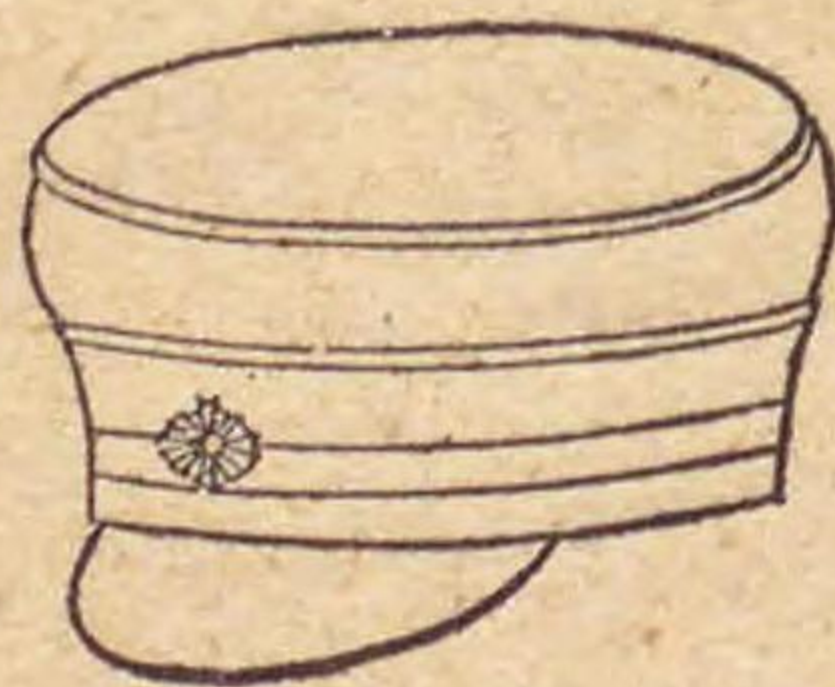
名 稱		名 稱		名 稱		名 稱	
守衛副長	同	守衛長	柄ハ藍絞絲金線ヲ纏フ背面ヲ覆フ金具ハ金色地ハ石目櫻唐草ヲ置ク鏢ハ金色櫻唐草鞘ハ鐵ヲニツケル鍔トシ兩箇ノ鈞環ヲ附ス中身ハ鍊鐵	守衛副長	同	守衛長	表ハ黑護謨革裏ハ藍革製トシ長適宜幅一寸鈞革ノ長第一ノ分八寸第二ノ分二尺二寸ニシテ幅七分其ノ下端ニ茄子銀ヲ附ス締輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ徑一寸三分五厘中央日章ヲ置キ其ノ周圍ハ櫻唐草トス金具ハ總テ金色
正守衛副長	濃紺絨金平織幅六分一條	正守衛長	白絨幅六分一條	正守衛副長	同	正守衛長	長靴踵ノ上際ニ止ル 大小物入兩股各一箇ヲ附ス
略守衛副長	同	略守衛長	同	略守衛副長	同	略守衛長	同
名 稱	地 質	名 稱	地 質	名 稱	地 質	名 稱	地 質
名 稱	側	名 稱	側	名 稱	側	名 稱	側
名 稱	章	名 稱	章	名 稱	章	名 稱	章
名 稱	製	名 稱	製	名 稱	製	名 稱	製
名 稱	式	名 稱	式	名 稱	式	名 稱	式
如圖	同	如圖	同	如圖	同	如圖	同

名 稱		名 稱		名 稱		名 稱	
守衛副長	同	守衛長	總頭金線橢圓壺形長一寸五分徑九分緒ハ金線丸打紐徑一分五厘長三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總テ附ス緒締ハ金線丸組紐幅三分五厘圓徑四分五厘	緒守衛副長	同	緒守衛長	總頭銀線長一寸三分徑八分緒及緒締ハ銀線餘ハ同
正守衛副長	同	正守衛長	白絹絲線三條緋絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	正守衛副長	同	正守衛長	七十條ノ緋絹絲繩目綯帶ハ緋絹絲組長帶共六寸圓徑一寸二分
略守衛副長	同	略守衛長	同	略守衛副長	同	略守衛長	長胴ノ周圍ヨリ長キコト約一尺八寸留金具ハ金色トシ帶ト同質テテ各一箇ヲ附ス
名 稱	地 質	名 稱	地 質	名 稱	地 質	名 稱	地 質
名 稱	製	名 稱	製	名 稱	製	名 稱	製
名 稱	式	名 稱	式	名 稱	式	名 稱	式
如圖	同	如圖	同	如圖	同	如圖	同

正 守衛長
正 守衛副長
但守衛副長
ハ横道大小
二線トス



正 帽



日 章



日 守衛長 守衛副長 守衛	名 稱	地	質	製	式	形 狀
薄白布				帽ノ形ニ從ヒ上部ノミヲ覆フ		如圖

夏 守衛長 守衛副長 守衛	甲 守衛長	乙 守衛長 守衛副長 守衛	名 稱	地 質	鈕	袖	章	製	式	形 狀
白布	表濃紺絨 裏適宜	同		金色圓形内ニ日章ヲ附シ徑七分五厘胸部十二箇側六箇收紐二箇ヲ附ス 黒角徑五分五厘覆面留三箇襟部紐留一箇後裂四箇ヲ附ス	同	金色略日章袖先ヨリ曲尺三寸上リノ所左但右二箇ヲ附ス 但シ日章徑六分	長靴踵ノ上際ヲ距ルコト大約八寸襟幅二寸ト長腕關節ヨリ延ルコト五分物入前面左右各一箇ヲ附ス	同	同	同
同	同	同		金色圓形内ニ日章ヲ附ス徑五分胸部三箇ヲ附ス襟ニ五箇ヲ附ス	同	同	同	長手甲ノ隠ルヲ以テ度トス 襟幅二寸	同	同

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

章 襟

守

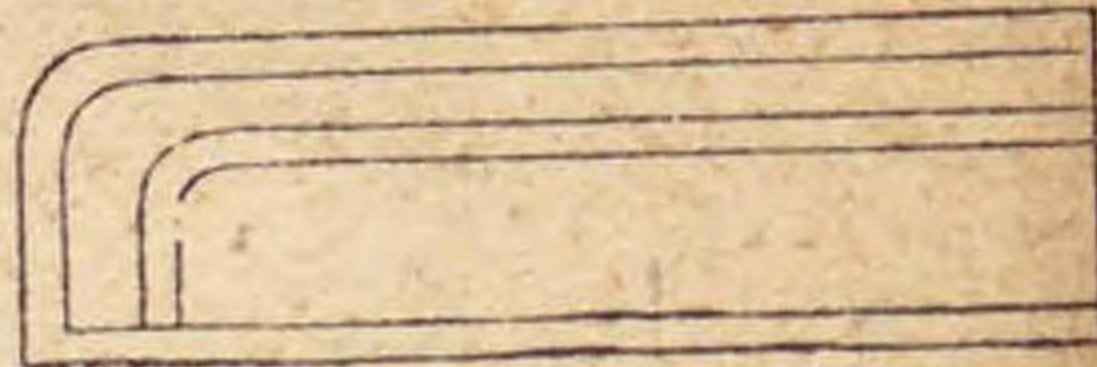
衛



章 襟

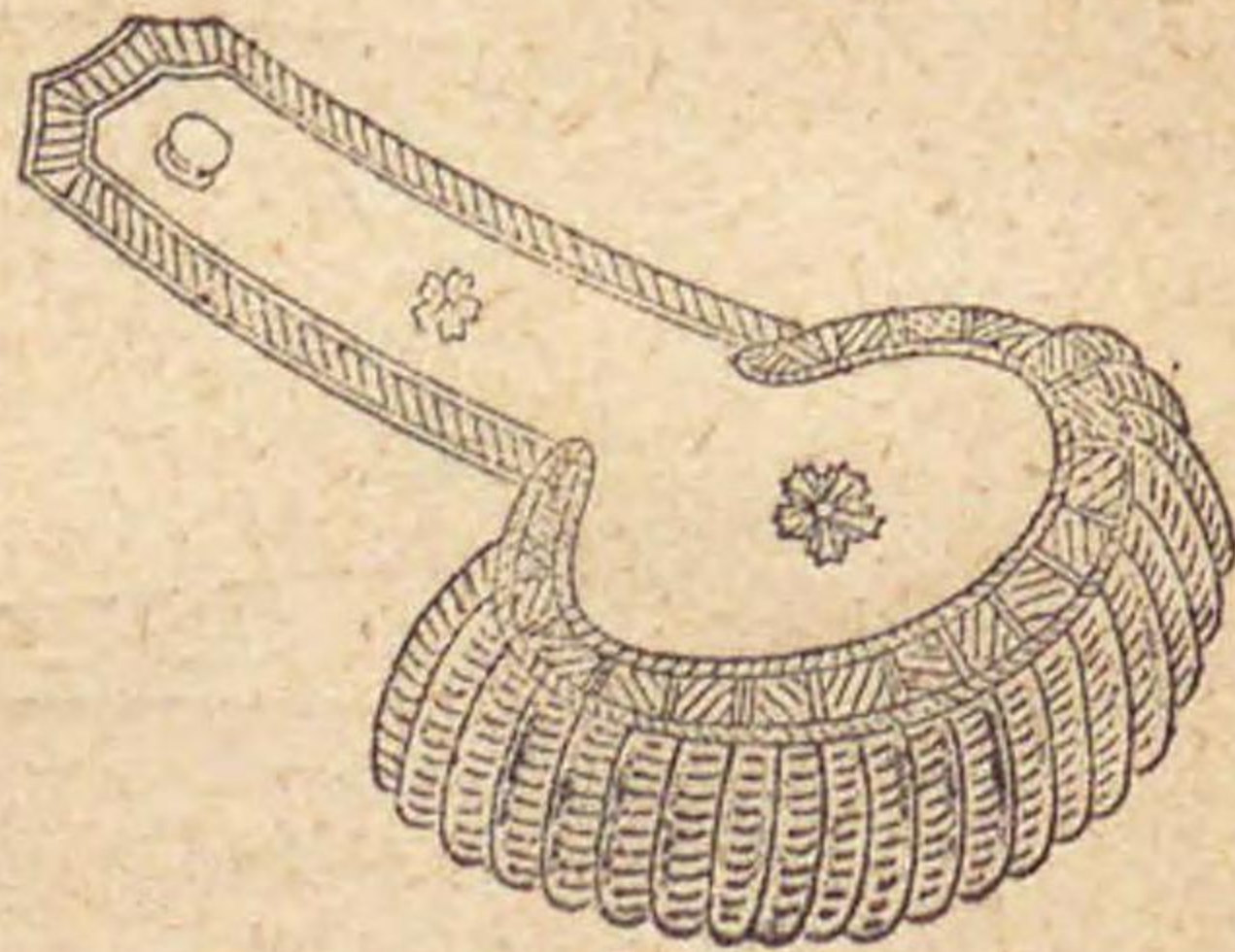
守衛副長

守衛長

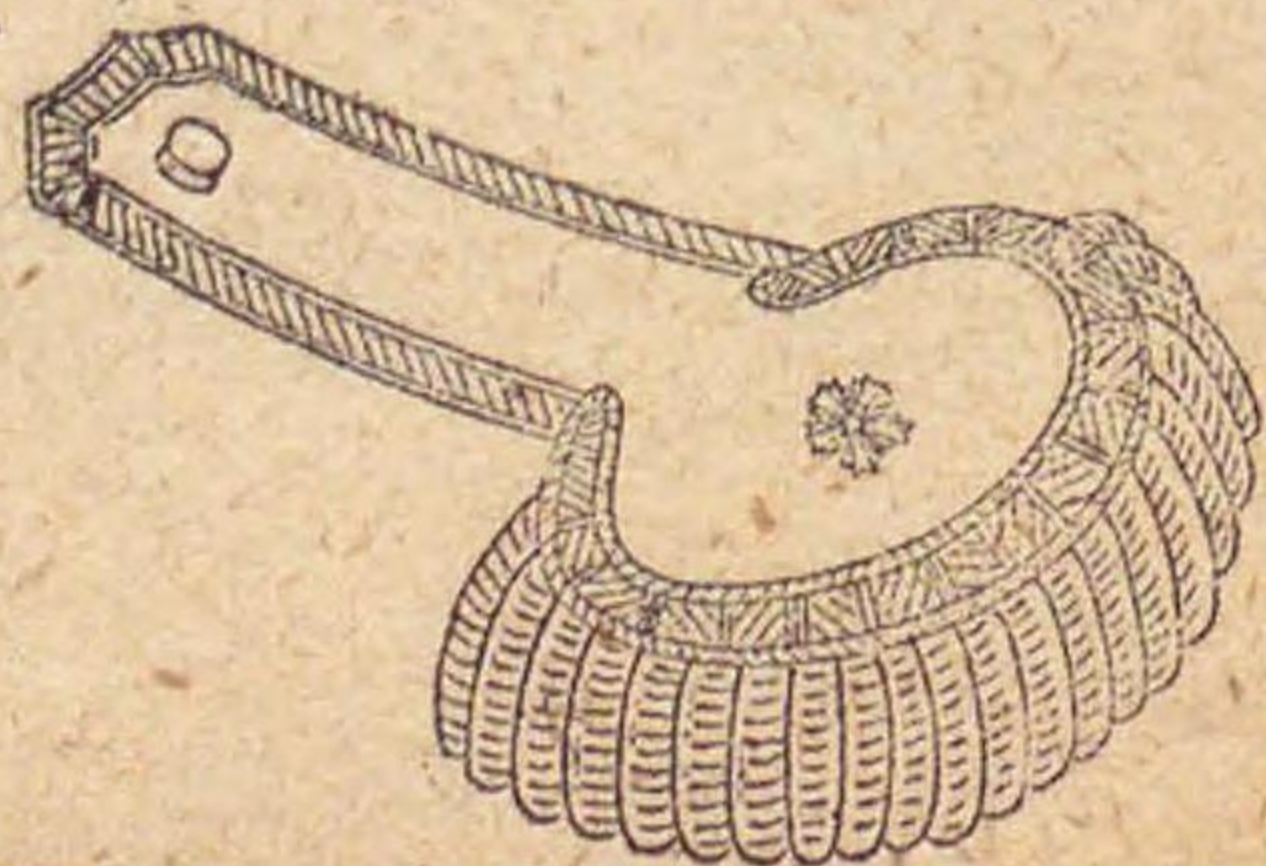


章 肩

守衛長



守衛副長



九三

衣 正

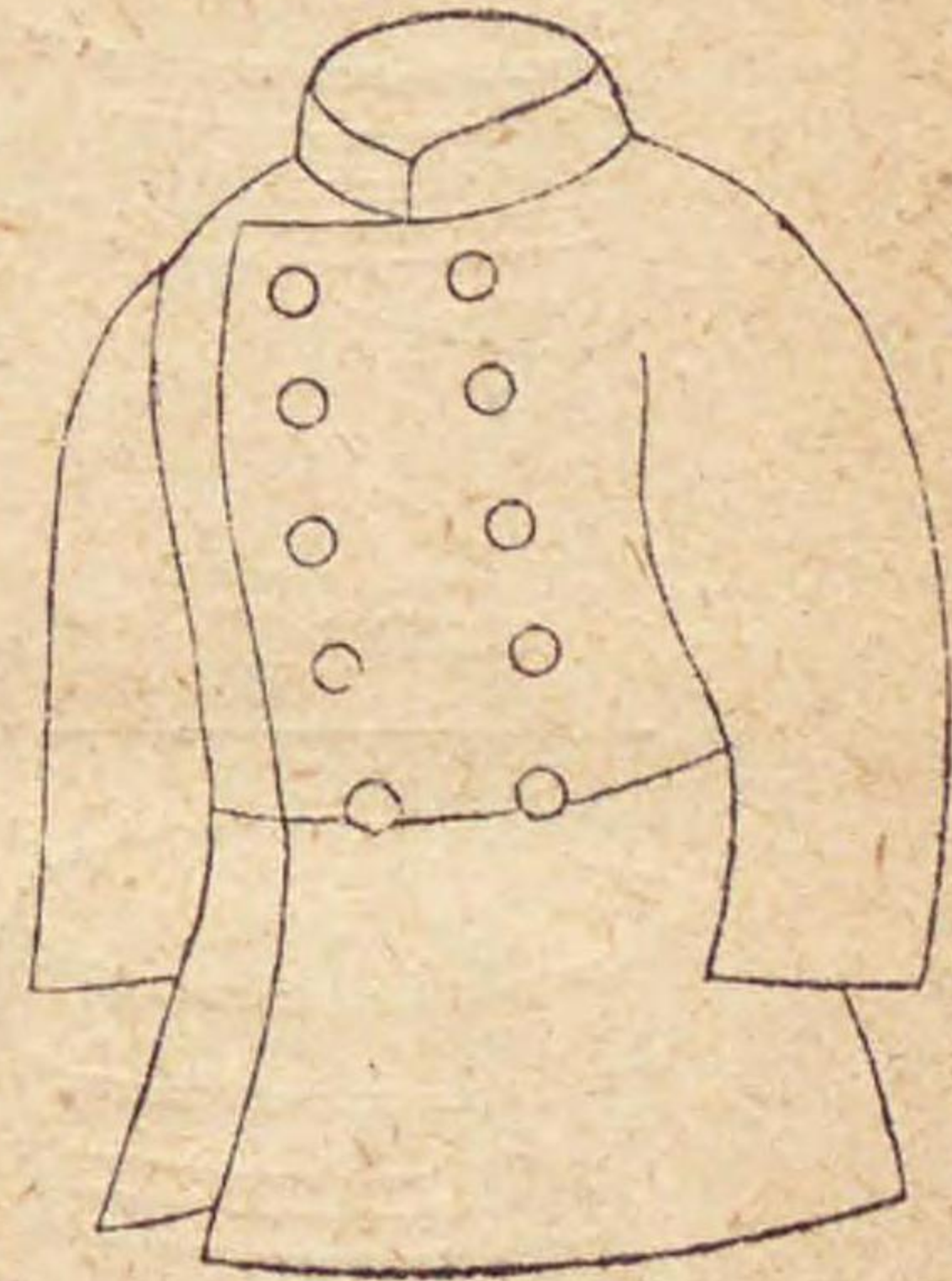
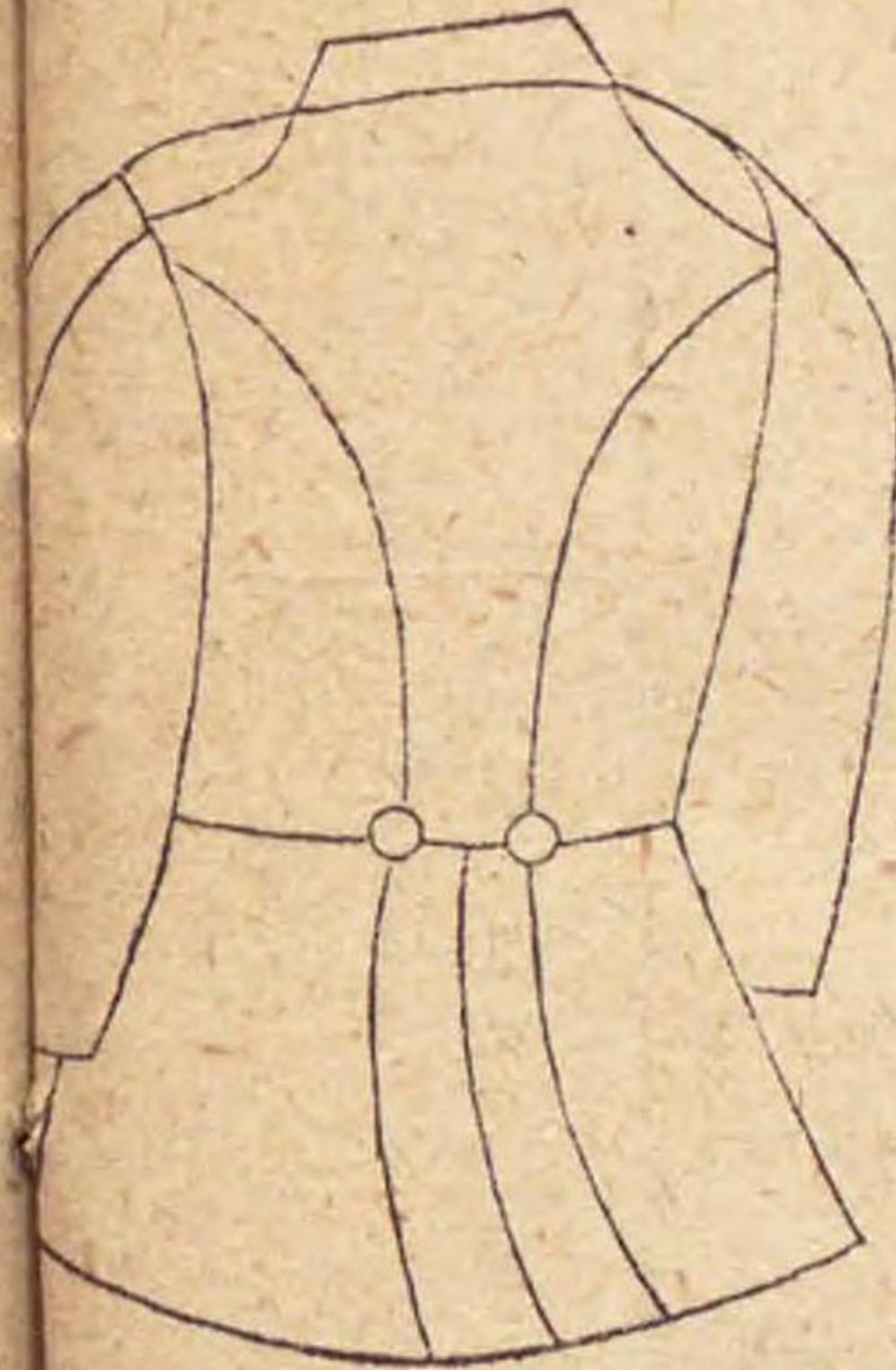
守衛

守衛副長

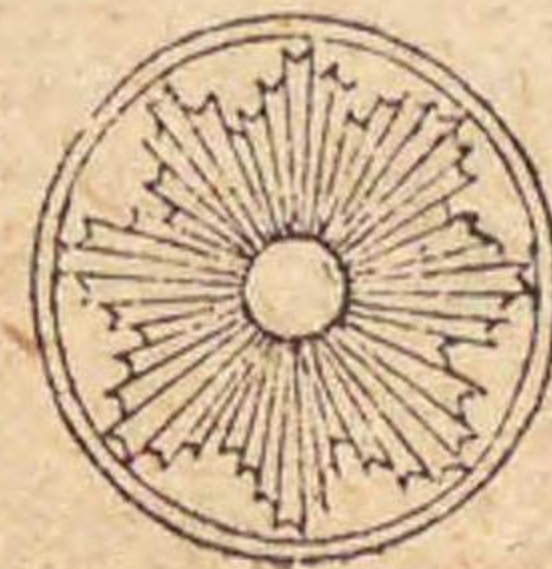
守衛長

面 後

面 前

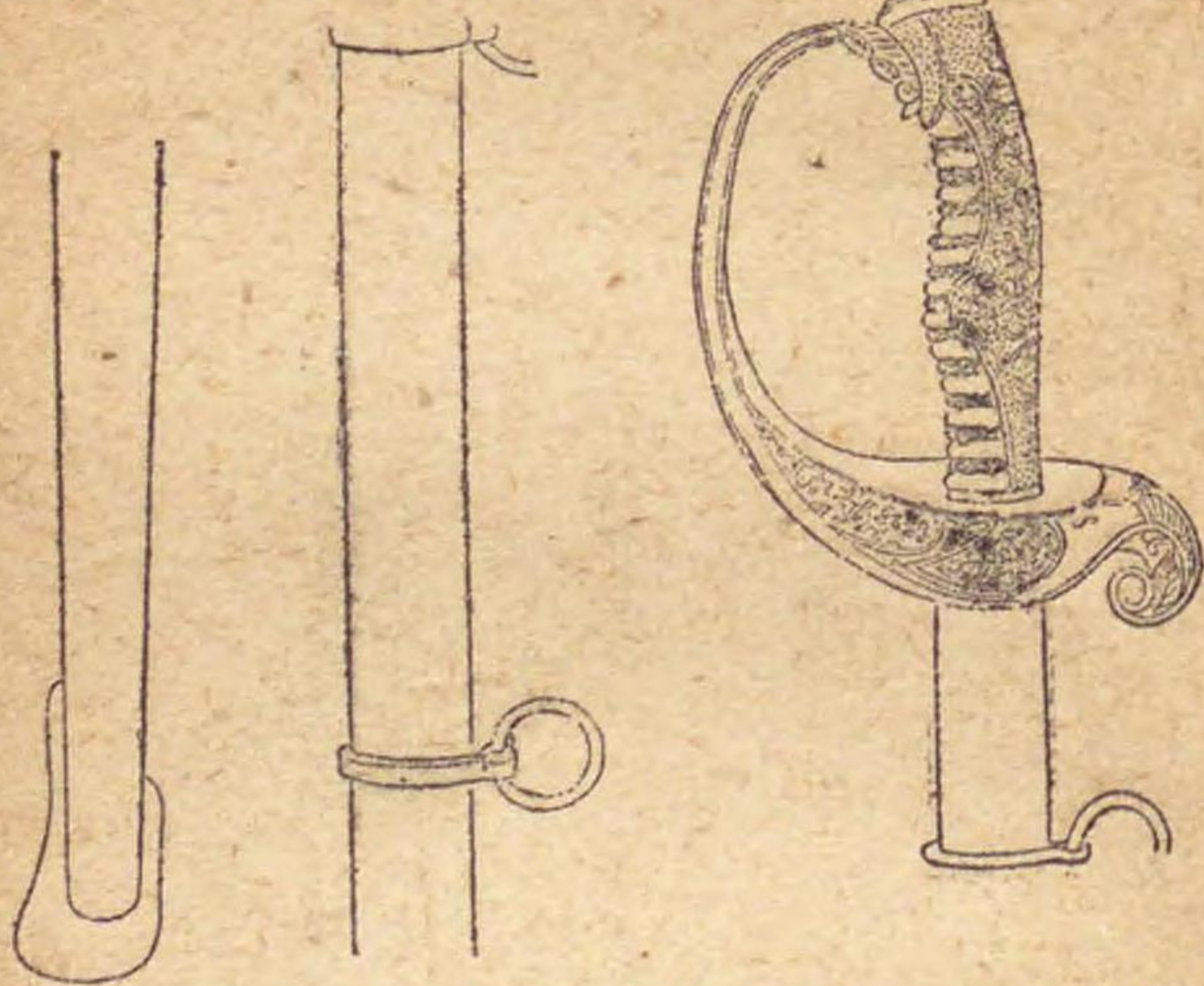


釦

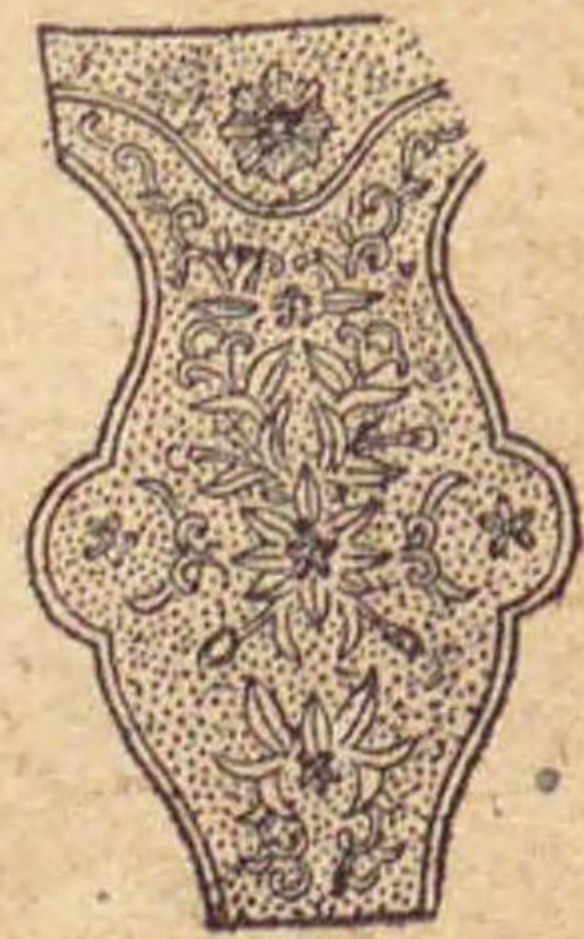
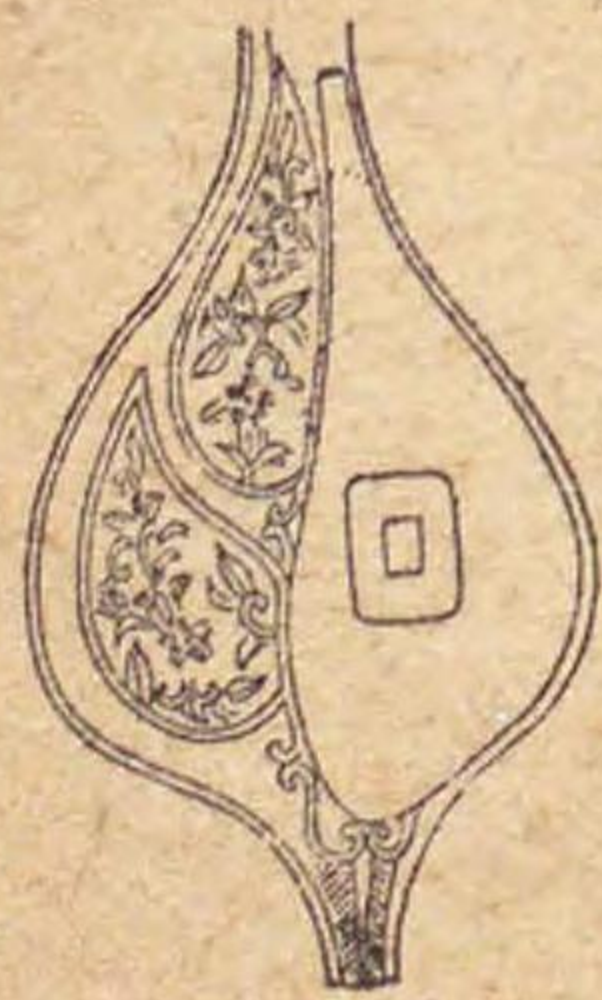


九二

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制



守衛長



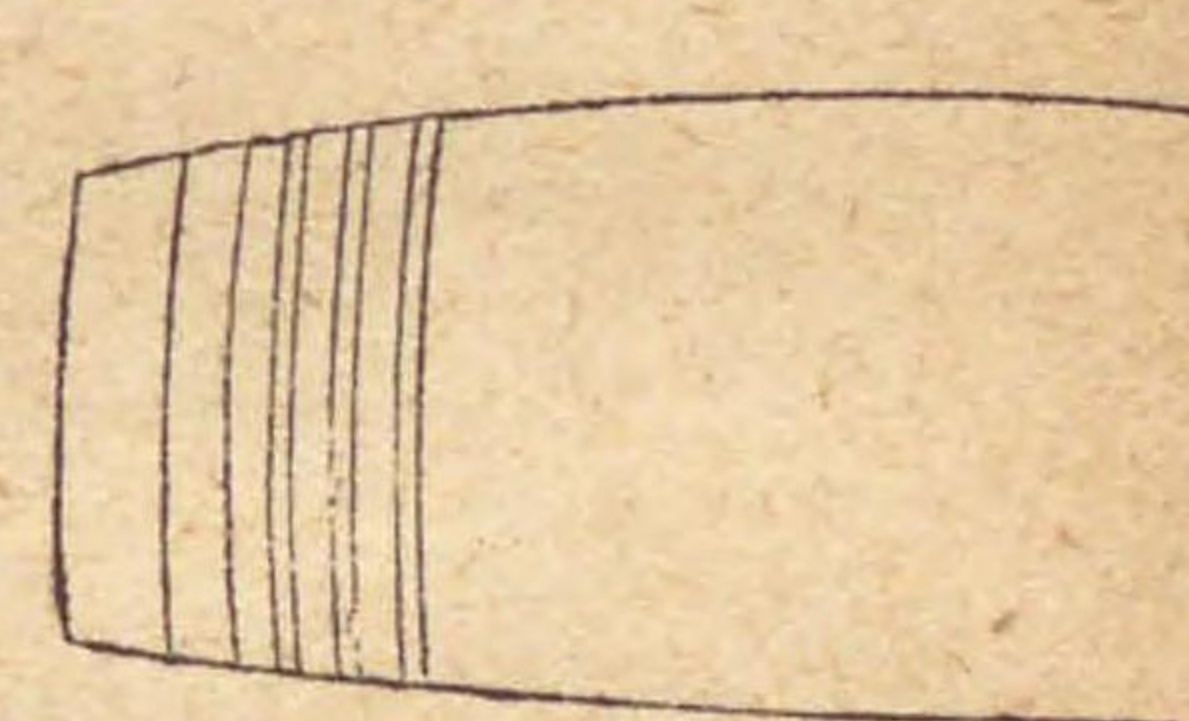
九五

袴 正

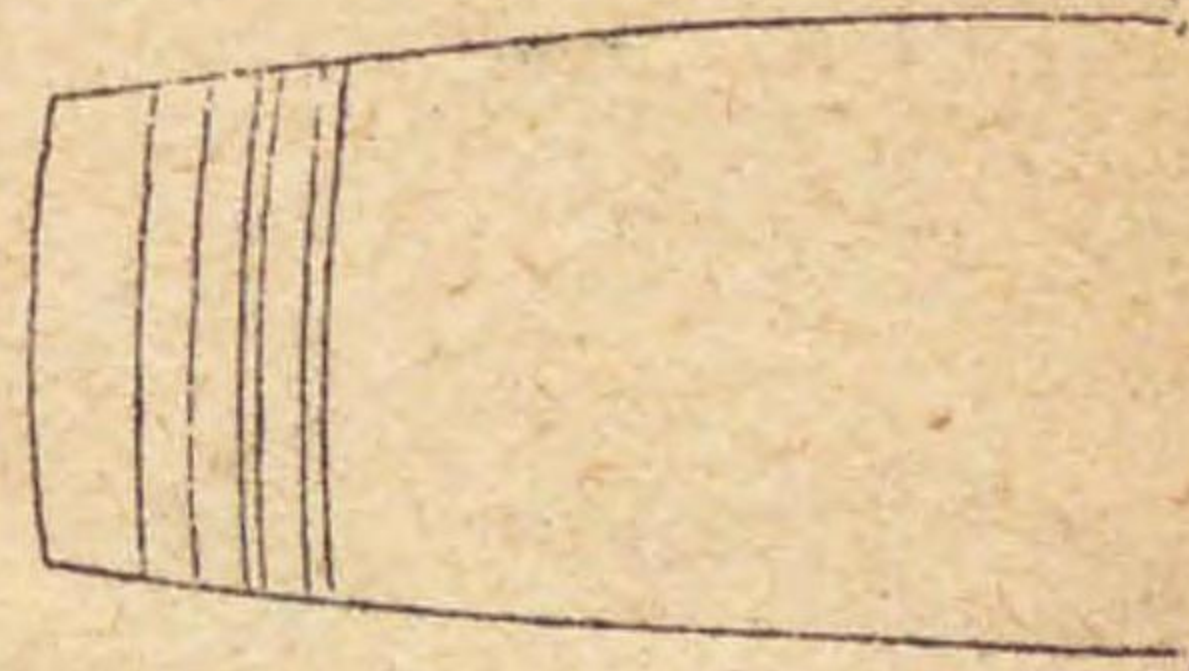
守衛副長
守衛長



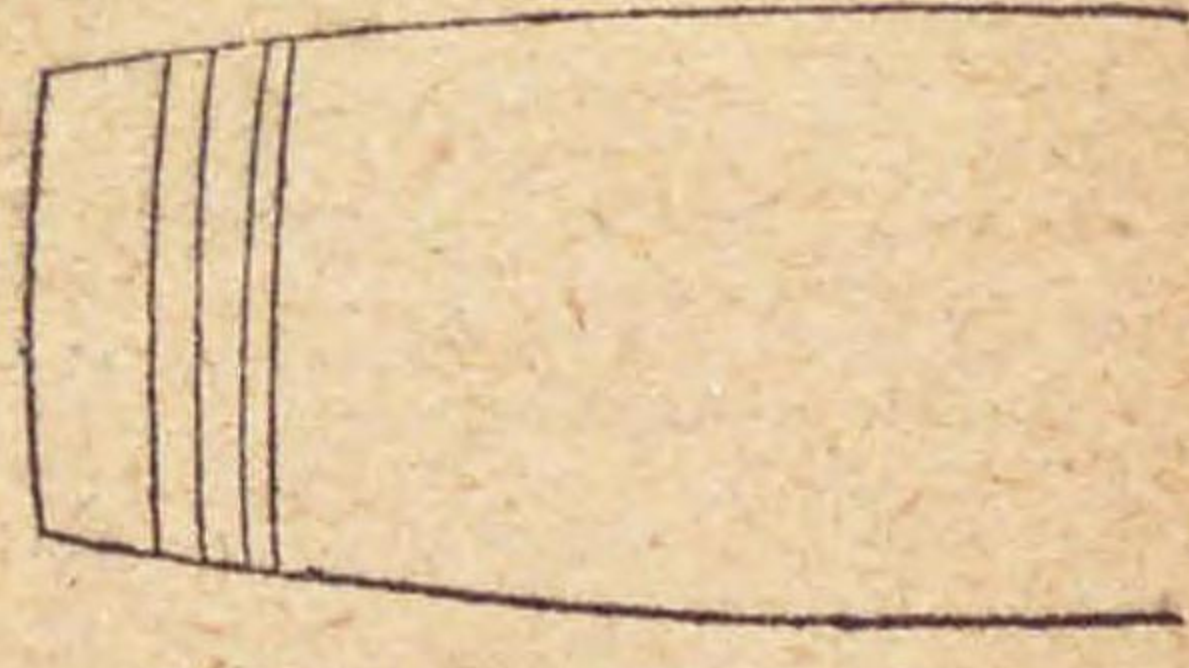
章 袖



守衛長



守衛副長

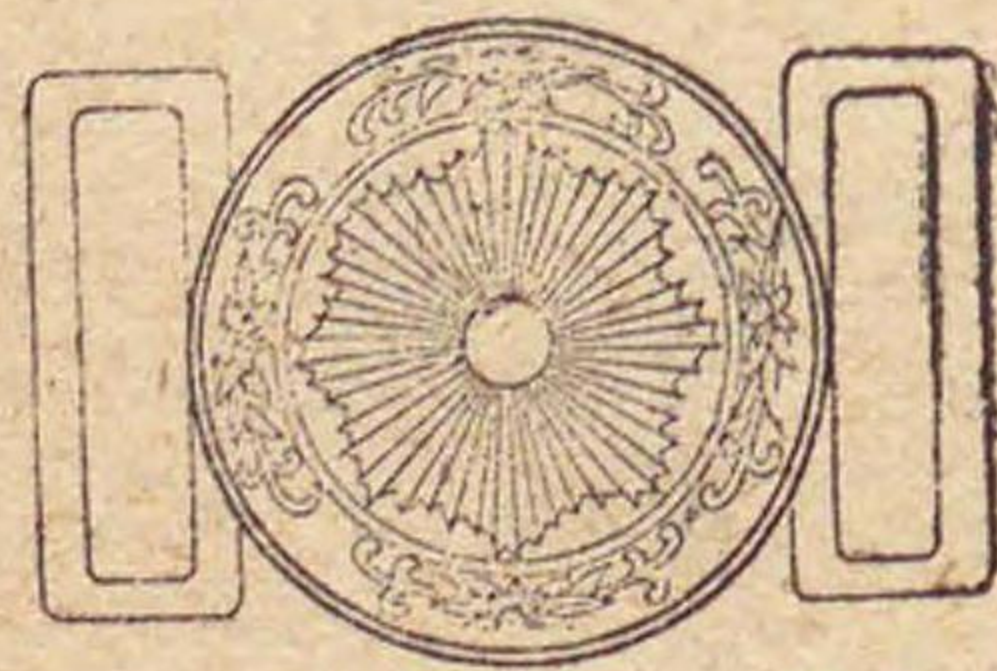
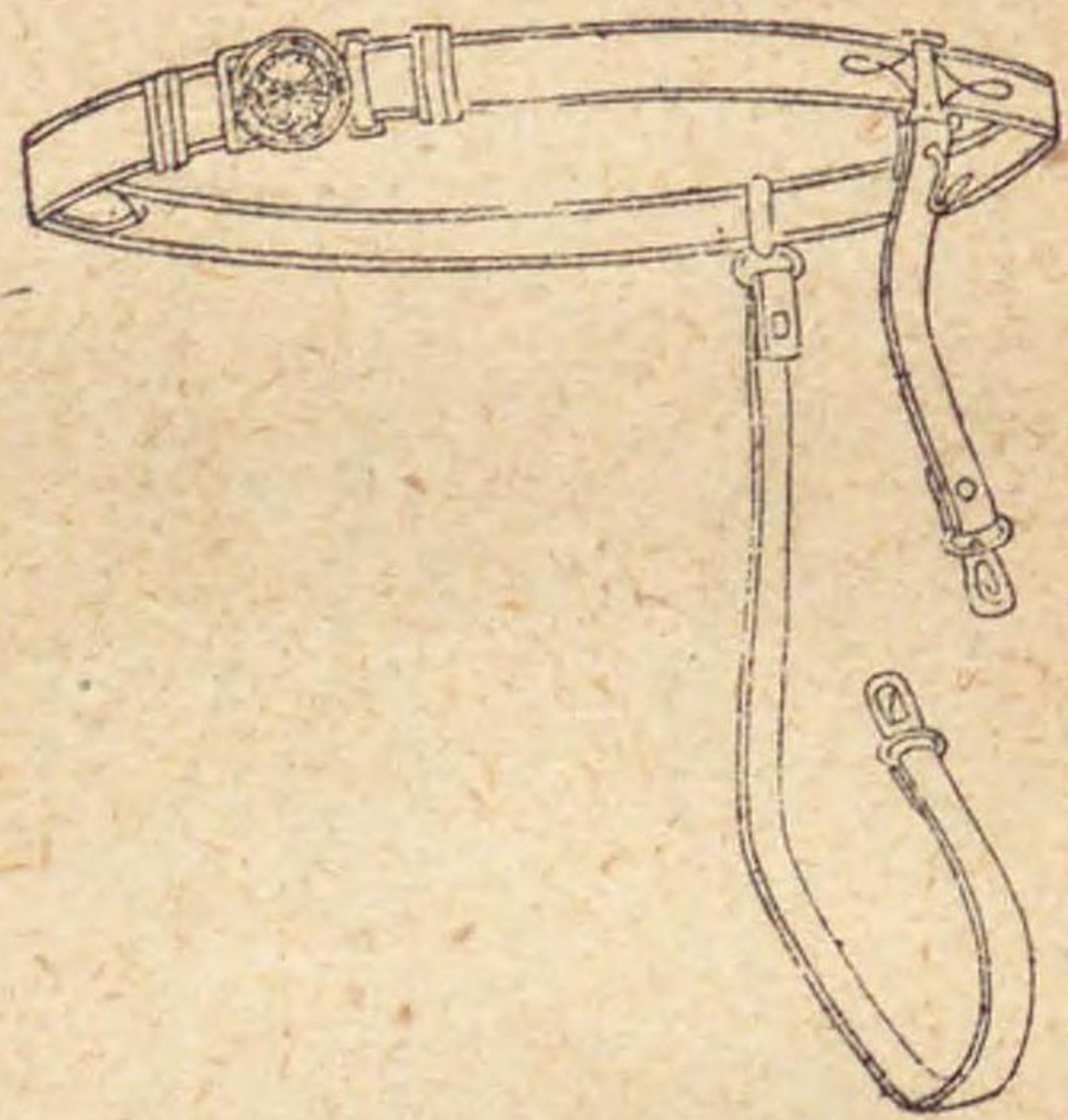


守衛

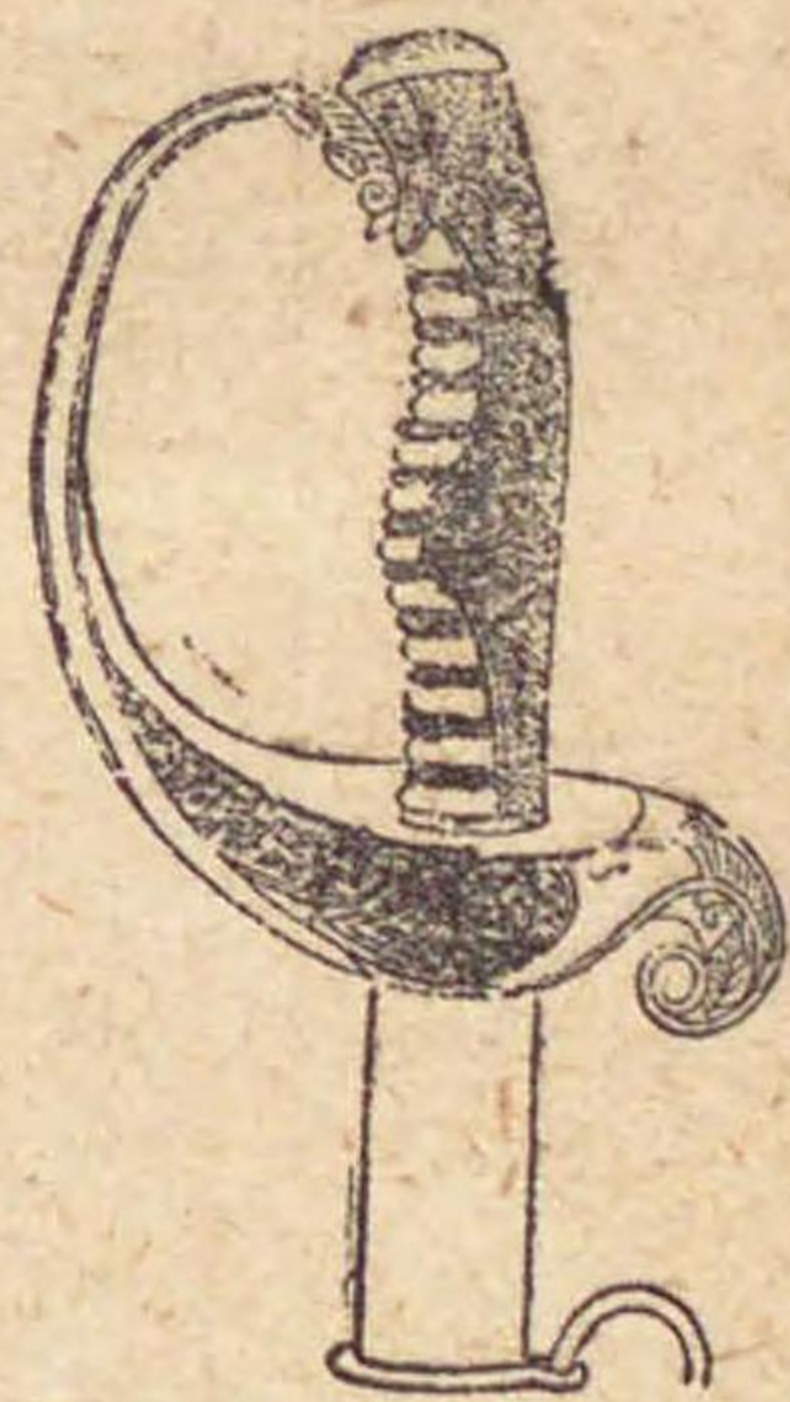
九四

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

帶 刀
守衛副長 守衛長



九七



守衛副長

九六

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

正 袴

守

衛



略 袴

守衛副長

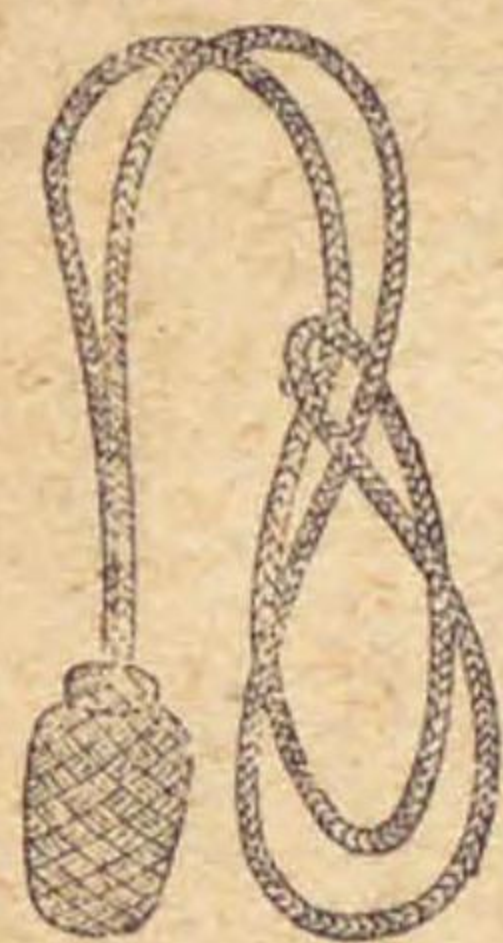
守衛長



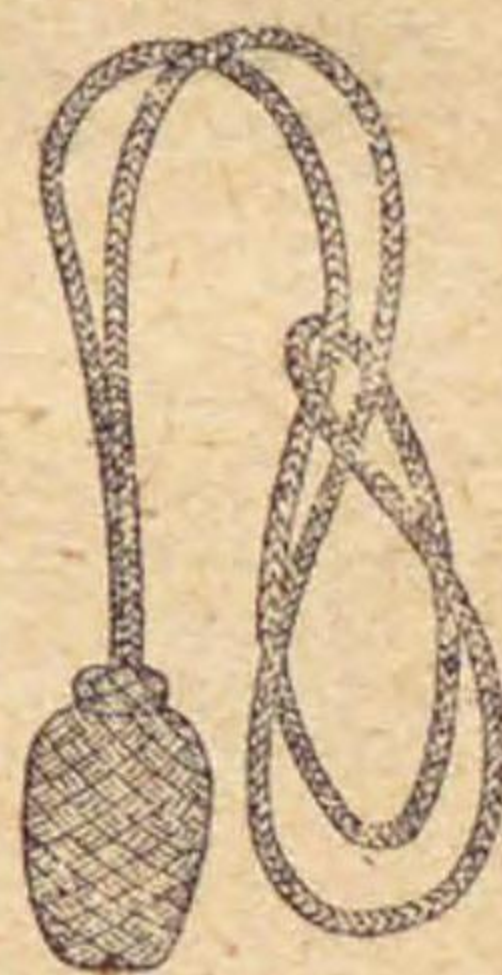
九九

刀 緒

守衛副長

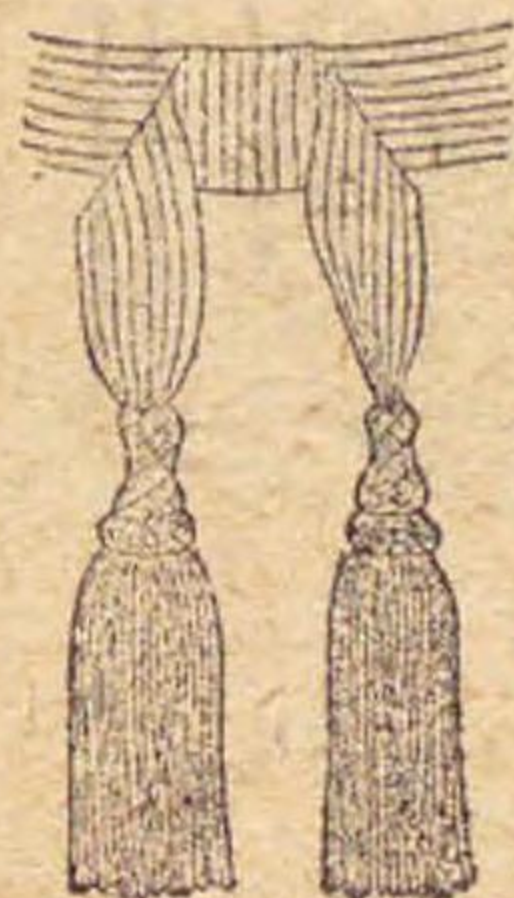


守衛長



飾 帶

守衛長

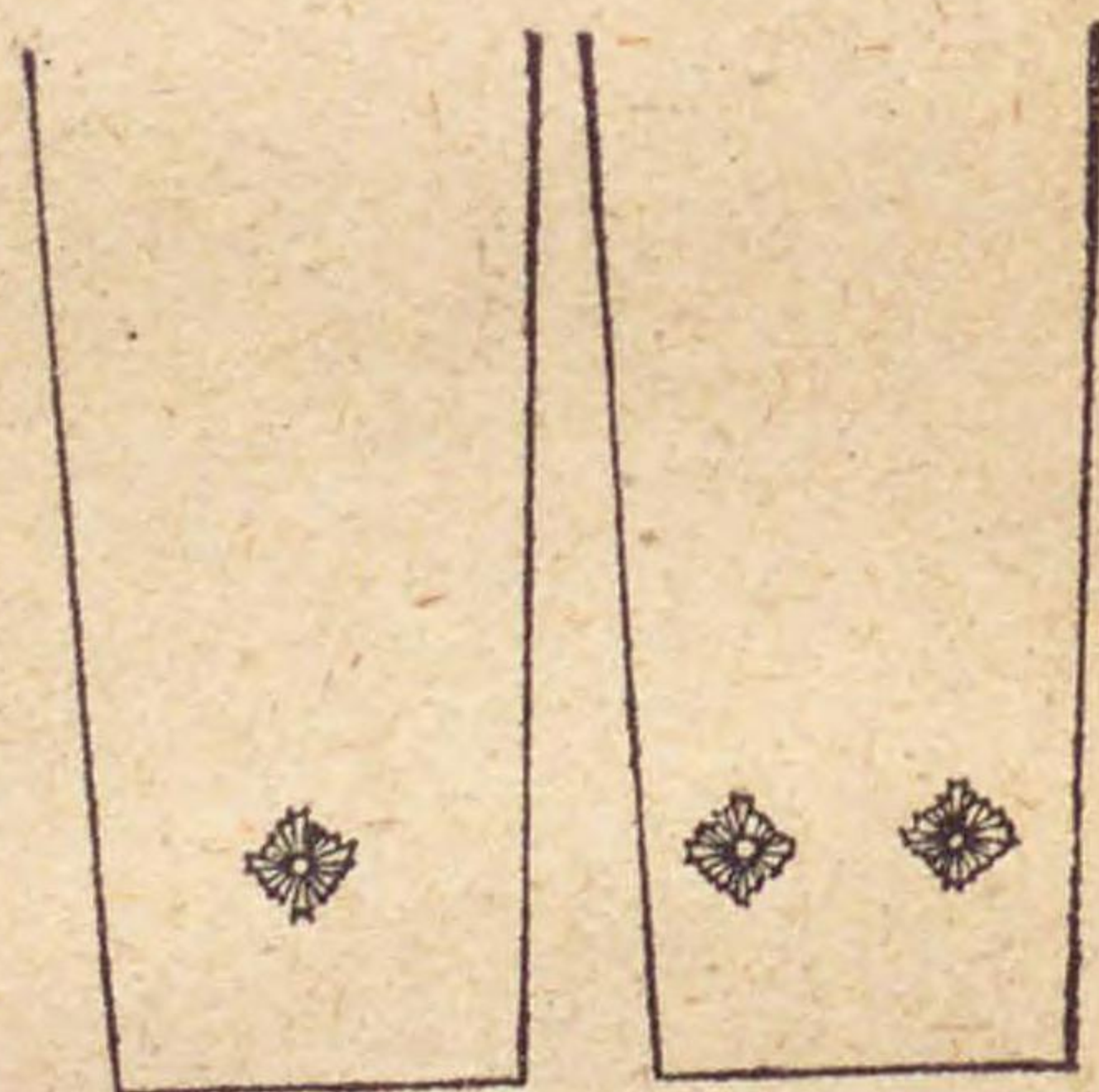


九八

外 套 袖 章

守衛副長

守衛長

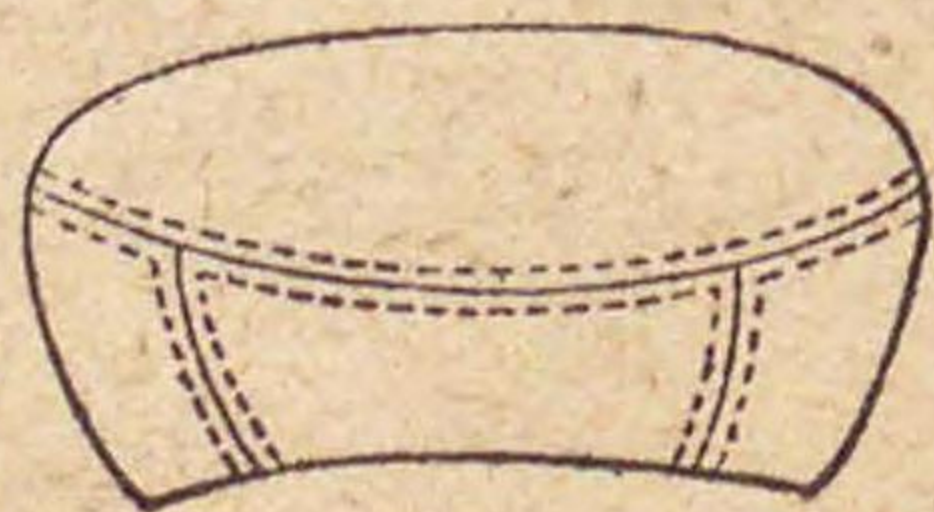


日 覆

守衛

守衛副長

守衛長

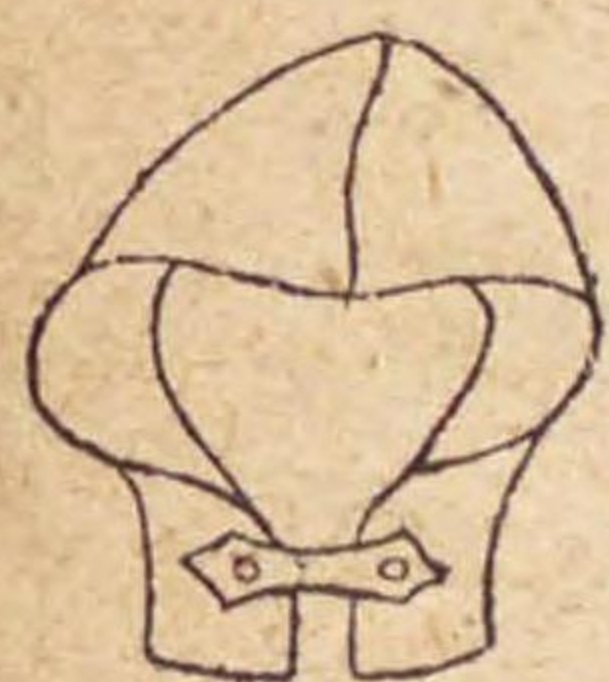


甲 種 外 套 雨 覆

守衛

守衛副長

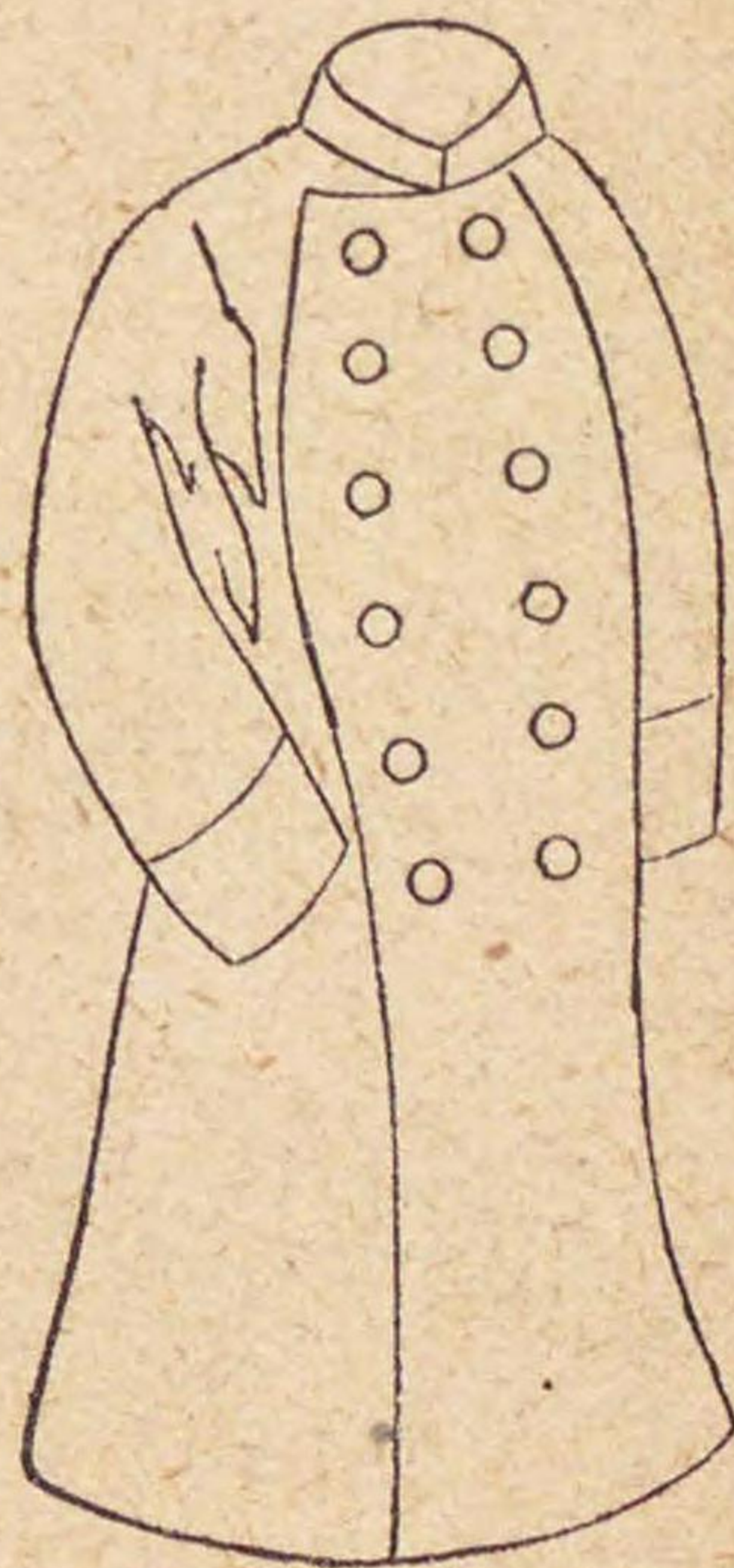
守衛長



後
面



前
面

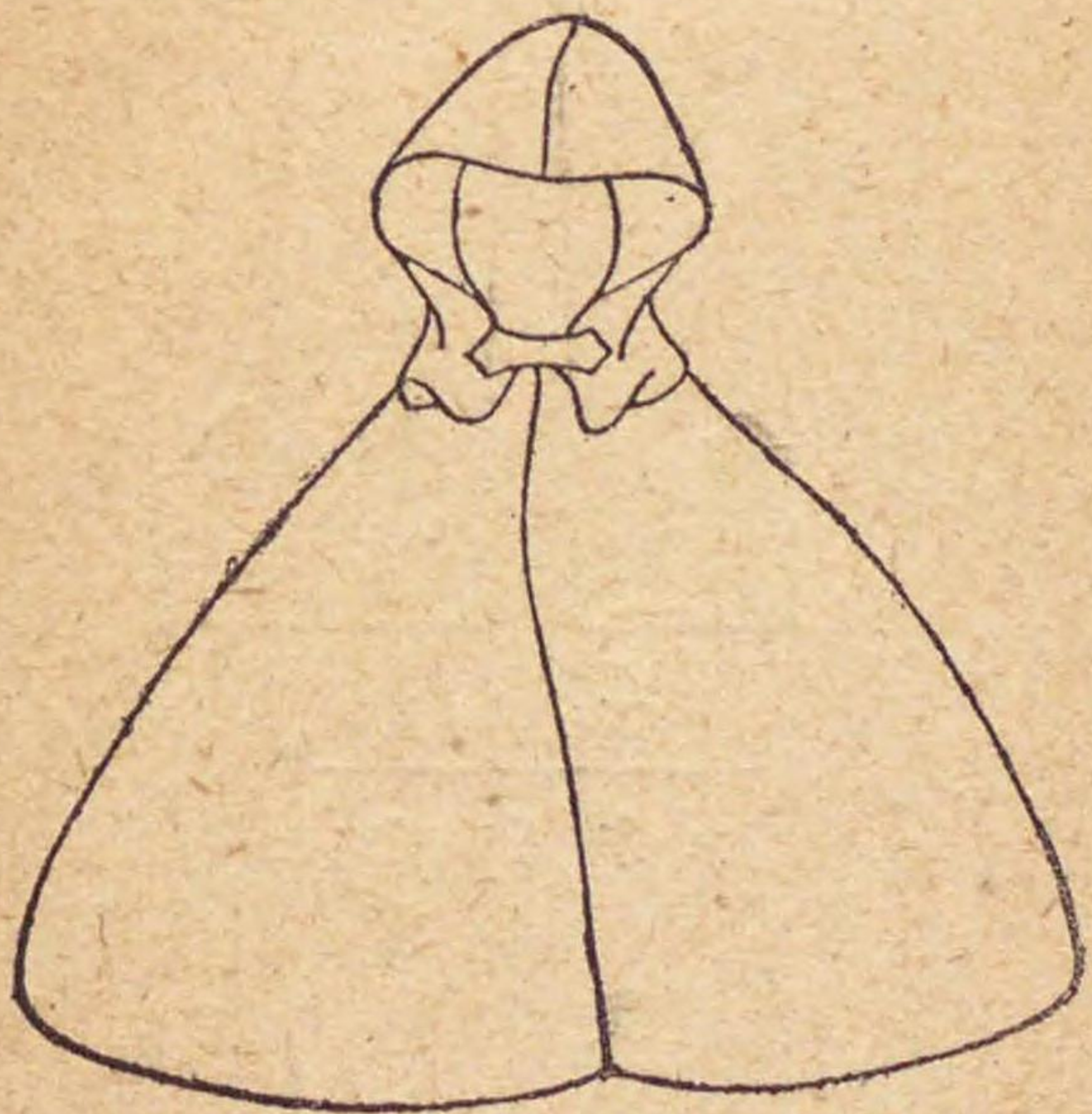


乙種外套

守衛長

守衛副長

守衛



○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服裝

規則 (明治三十年十月閣令第三號)

第一條 守衛長守衛副長ノ服裝ヲ分チテ正裝略裝ノ二種トシ守衛ノ服裝ハ正裝ノミトス

第二條 正裝トハ正帽、正衣、正袴、手套及下襟ヲ著用スルヲ云ヒ略裝トハ、正帽、正衣、略袴、手套及下襟ヲ著用スルヲ云フ

第三條 正裝ヲ著用スル場合左ノ如シ

- 一 新年參賀
- 二 三大節參賀及祭典參拜
- 三 叙位敍勳及之ニ均シキ場合
- 四 一般大禮服及通常禮服ヲ著用スヘキ場合

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服裝規則

守衛ハ總テ勤務ノトキニ在テモ正装ヲ著用スヘシ

第四條 守衛長守衛副長ノ略装ハ議會開會中及當直勤務ノ際著用スヘシ

第五條 外套及覆面ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ日覆ハ炎暑ノ際ニ限リ著用スヘシ

但儀式祭典ノ場所及上官ノ室内又ハ議場、傍聽席ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六條 靴ハ黑色革製ニ限ルモノトス

第七條 外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲取シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

○守衛給與品及貸與品規程

第一條 守衛ニハ服制並ニ服裝規則ニ依リ被服ヲ給與シ及服務ニ必要ナル

物品ヲ貸與ス

第二條 給與被服ノ種類員數及使用期限ハ左ノ各項ニ據ル

但使用期間ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

- 一 帽 壹 個 十二箇月
- 一 冬服 壹 組 八箇月(自十月至五月)
- 一 夏服 壹 組 四箇月(自六月至九月)
但袴貳著
- 一 甲種外套 壹 襲 二十四箇月
- 一 乙種外套 壹 枚 四箇月
- 一 日覆 壹 枚 十二箇月
- 一 手套 貳 個 十二箇月
- 一 下襟 四 個 十二箇月
- 一 冬肌著 壹 組 八箇月(自十月至五月)
- 一 夏肌著 壹 組 四箇月(自六月至九月)

- 一 靴下 十二足 十二箇月
- 一 長靴 壹足 十八箇月
- 一 短靴 壹足 六箇月

第三條 前條ノ使用期間ハ月割計算トシ其期間滿了ノ翌月ニ至リ之ヲ給與ス

第四條 貸與物品ノ種類ハ左ノ如シ

- 一 帽章
- 一 被服ノ釦
- 一 外套縮革
- 一 手帳
- 一 捕繩
- 一 呼子笛

第五條 過失怠慢ニ依リ給與品ヲ毀損亡失シタルトキハ修補又ハ代納辨償セシム

第六條 貸與ノ物品ハ貸與ノ事由止ミタルトキハ之ヲ返納セシム使用期間ノ終ラサル給與被服モ亦同シ但精勤者ニハ特ニ之ヲ給與スルコトアルヘシ

附則

第七條 本規程第二條ニ依リ給與スヘキ被服中手套以下ハ左ノ料金以內ヲ以テ一箇年ノ見積價格十二分ノ一宛ヲ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

- 一 手套 壹個ニ付 金拾五錢
- 一 下襟 壹個ニ付 金五錢
- 一 冬肌著 壹組ニ付 金七拾錢
- 一 夏肌著 壹組ニ付 金六拾錢

- 一靴下 壹足ニ付 金 五 錢
- 一長靴 壹足ニ付 金 參 圓
- 一短靴 壹足ニ付 金 貳 圓

○守衛宿料支給規則 (大正五年四月一日制定)

第一條 宿料ハ左ノ額ニ從ヒ之ヲ支給ス
 但シ開會中ト雖モ守衛勤務條項第二十一條ヲ適用セサル場合ハ閉會中ニ準ス

職 名	宿料月額
守衛班長タル守衛並特別技能ヲ有スル守衛	金 五 圓
開會中 守衛	金 五 圓
閉會中 守衛	金參圓五拾錢

第二條 病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサル者ノ宿料ノ給與法ハ守衛給與令第九條ノ例ニ依ル

第三條 宿料ハ任命ノ翌日ヨリ休職轉免死亡ノ當日迄之ヲ支給ス
 但シ守衛給與令第七條各號ノ一ニ該當スル者ニハ其全額ヲ給ス

第四條 軍務ノ爲メ召集セラレタル者ニハ出發ノ當日ヨリ歸院ノ前日迄宿料ヲ支給セス

○食料支給規程 (明治四十二年五月二日改定)

- 一 守衛副長守衛班長守衛ニハ宿直ヲ爲ストキハ左ノ食料ヲ支給ス
 - 守衛副長並 宿直(壹回分)食料 一金貳拾五錢
 - 守衛班長 宿直(壹回分)食料 一金拾五錢
 - 守衛 宿直(壹回分)食料 一金拾五錢

○豫備後備ノ軍籍ニ在ル貴族院及衆議院ノ守衛ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレ

タルモノニ休職ヲ命スルノ件(明治三十七年四月勅令第二百二十二號)

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル貴族院及衆議院ノ守衛ニハ其間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス第一項ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ受クル俸給又ハ給料ノ額休職ヲ命セラレタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナル時ハ其不足額ニ相當スル金額以内ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

○官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シテ忠順勤勉ヲ主トシ

法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受

豫備後備ノ軍籍ニ在ル貴族院及衆議院ノ守衛ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルモノニ休職ヲ命スルノ件 官吏服務紀律 一一一

クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗宴ヲ受ク

ルコトヲ得ス

一官廳ノ工事ヲ受負フ者

一官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一官廳ノ用品ヲ調達スル者

一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域内ニアラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○巡查看守退隱料及遺族扶助料法

(明治三十四年七月法律第三十八號改正、明治三十八年二月法律第二十八號、大正四年一月法律第二號)

第一條 巡査又ハ看守勤續十年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ退隱

料ヲ給ス

- 一 年齡五十歳ヲ超ヘ退職シタルトキ
- 二 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退職シタルトキ
- 三 廢官廢廳ニ依リテ退職シタルトキ
- 四 身體若クハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ニ於ケル月俸三箇月分トシ勤續十年以上三十年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ退職當時ノ月俸額十分ノ一ヲ増加ス

第二條 巡查又ハ看守勤續一年以上十年未滿ニシテ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ一時金ヲ給ス但シ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ハ此ノ限リニ在ラス

一時金ハ退職當時ニ於ケル月俸額ノ三分ノ二ニ勤續年數ヲ乘シタル額トス

第三條 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ勤續一年以上ニシテ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續三十年ニ至ル迄後ノ勤續一年ヲ加フル毎ニ後ノ退職當時ニ於ケル月俸額十分ノ一ヲ退隱料年額ニ増加ス

但シ後ノ勤續年數ニ付第一條ニ依リ算定シタル退隱料年額本條ニ依リ算定シタル年額ヨリ多キトキハ其額ニ依ル

一時金ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ第一條第一項各號ノ

一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續十年以上ニ至ルモノニハ第一條ニ依リ退隱料ヲ給シ十年未滿ノ者ニハ第二條ニ依リ後ノ勤續年數ニ對スル一時金ヲ給ス

第四條 巡查又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ト爲リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキハ退隱料ヲ給ス

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ノ月俸三箇月乃至六箇月分トス
第一條及第三條ニ依リ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者本條第一項ニ當ルトキハ其退隱料年額ニ退職當時ノ月俸四箇月分以内ヲ増加ス

前二項ニ依ル退隱料年額及ヒ増加金額ハ傷痍疾病ノ輕重ニ依リ之ヲ定ム
第五條 前條ノ規定ハ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後一年以内ニ其ノ傷痍疾病ニ起因シ前條第一項ニ當ルニ至リタルモノニ之

ヲ準用ス

第六條 巡查又ハ看守交互ニ轉職シ又ハ他ノ官職ニ轉シタル時ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルモノト看做ス

策七條 巡查又ハ看守左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ遺族ニ扶助料ヲ給ス

一 職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキ

二 勤續十年以上ニシテ在職中死亡シタルトキ

三 退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘクシテ死亡シタルトキ

扶助料年額ハ前項第一號ノ場合ニ在リテハ第四條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トシ第二號ノ場合ニ在リテハ第一條又ハ第三條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ一トシ第三號ノ場合ニ在リテハ其退隱料年額ノ三分ノ一トス但シ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後一年以内ニ其ノ傷痍疾病ニ起因シテ死亡シタルトキハ第四條第五條ニ依リ査定シ

タル金額ノ三分ノ二トス

第八條 扶助料ハ寡婦ニ給ス寡婦死亡シ又ハ扶助料ヲ受ク可ラサルトキハ子ニ給ス

數子間ニ在リテハ法定家督相續ノ順位ニ依リ最先者ニ給ス最先者死亡シ若ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ順次次位者ニ轉給ス

民法第九百六十九條ニ依リ家督相續人タルコトヲ得サルモノ及ヒ推定家督相續人ニシテ廢除セラレタル者ニハ扶助料ヲ給セス但シ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ狀況ニ依リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ廢除セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

養子ハ家督相續人ニ非サレハ扶助料ヲ給セス

第九條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及子ナキトキハ扶助料ハ直系尊屬ニ給ス

前項ノ場合ニ在リテハ先ツ父ニ給シ父死亡シ又ハ扶助料ヲ受クヘカラサ

ルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此ノ例ニ依ル

第十條 扶助料ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姉妹二十歳未滿又ハ篤疾若ハ癡疾ニシテ自活スルコト能ハサルトキハ扶助料ニ相當スル金額ノ三箇年分以内ヲ一時限リ給スルコトアルヘシ

第十一條 退隱料ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ之ヲ給セス

- 一 國籍ヲ喪失シタルトキ
- 二 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 在職中ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十二條 遺族ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ扶助料ヲ給セス

- 一 前條第一號又ハ第二號ニ當ルトキ

二 寡婦婚姻シタルトキ

三 子年齢二十歳ニ滿チタルトキ

四 尊屬ノ女婚姻シタルトキ

第十三條 子二十歳ニ滿ルモ篤疾又ハ癡疾ニシテ自活スルコト能ハス他ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ事由ノ存續スル間扶助料ノ三分ノ一ヲ給スルコトアルヘシ

第十四條 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱料ノ支給ヲ停止ス

- 一 公權ヲ停止セラレタルトキ
 - 二 六箇月以上行方不明ナルトキ
- 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ判任官待遇以上ノ官職ニ就キタル場合ニ於テハ其俸給月額ニ退隱料月額ヲ合シ退職當時ニ於ケル俸給月

額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對スル退隱料ノ支給ヲ停止ス

第十五條 扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者前條第一項各號ノ一ニ當ルト

キハ其ノ間扶助料ノ支給ヲ停止シ第八條第九條ノ順位ニ依リ之ヲ次位者

ニ轉給ス

第十六條 退隱料及ヒ扶助料ノ年額竝ニ一時金ノ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシ

ム

第十七條 巡查又ハ看守ノ勤續年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ

終ル但シ十二箇月未滿ノ端數ハ之ヲ算入セス

休職及ヒ教習中ノ月數ハ勤續年數ニ算入ス

第十八條 巡查又ハ看守其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ軍人恩給法ノ算

則ニ照シテ從軍年ヲ加算ス

第十九條 本法ニ於テ寡婦子尊屬ト稱スルハ巡查又ハ看守タリシ者死亡ノ

當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ但シ父死亡後出生シタル嫡出ノ子

ハ死亡當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

第二十條 退隱料及扶助料ノ支給停止及ヒ廢止ハ其ノ事由ノ生シタル翌月

ヨリ之ヲ行フ

第五條ニ依ル退隱料ノ支給ハ事由認定ノ翌月ヨリ始マリ前條但書ニ依ル

扶助料ノ支給ハ出生ノ翌月ヨリ始マル

第二十一條 退隱料一時金及ヒ扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨ

リ三年以内ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

第二十二條 退隱料ハ民事訴訟法第五百七十條及第六百十八條ノ規定ニ關

シテハ恩給ト看做ス

第二十三條 本法ニ依ル給與金ノ支給ニ關スル事項ヲ裁定スヘキ行政官廳

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 本法ニ依ル給與金ハ巡查又ハ看守最後ノ退職又ハ死亡當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第二十五條 本法ニ依ル給與金ノ一部又ハ全部ヲ拒否セラレタル者其ノ拒否ヲ不當ナリトスルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニシテ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 本法ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、警視廳消防手女監取締及其遺族ニ之ヲ適用ス

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 明治十五年太政官達第四十一號巡查看守給助例ハ巡查看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、海軍警査、貴族院守衛衆議院守衛、及其遺族ニ適用セス但シ巡查看守給助例ニ依リ現ニ給助ヲ受クル者又ハ既

ニ受クヘキ事由ノ生シタル者又ハ其ノ事由ニ起因シテ一年以内ニ重症ニ趨キ又ハ死亡シタル者ニ對シテハ其ノ第一條乃至第七條ヲ適用スルノ外本法第三條第十一條第十二條第十四條第十五條第二十條第二十一條第二十三條及第二十五條ヲ準用ス

明治十五年太政官達第六十六號ハ巡查、看守ニ明治三十三年法律第三十號ハ巡查、看守、陸軍監獄看守、陸軍警守、海軍監獄看守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、女監取締及其ノ遺族ニ之ヲ適用セス

第二十九條 陸軍會計卒ニシテ陸軍監獄看守ノ職ヲ奉シ引續キ陸軍看守卒ト爲リ尚引續キ陸軍監獄看守ト爲リタル者又ハ陸軍看守卒ヨリ陸軍監獄看守ト爲リタル者ニ付テハ前在職中ノ年月數ヲ陸軍監獄看守ノ在職年月數ニ通算ス但シ軍人恩給法ニ依リ免除恩給ヲ受ケタル者ハ此ノ限リニアラス

前項ニ依リ通算シタル會計卒及看守卒ノ在職年月數ハ官吏恩給法ニ依ル
在官年數及軍人恩給法ニ依ル服役年數ニハ之ヲ算入セス

附 則 (明治三十八年二月法律第二十八號)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條ノ規定ハ明治三十四年八月一日以後本法施行以前ニ於テ退隱
料扶助料若ハ一時金ヲ受ケ又ハ受クヘキ事由ノ生シタル場合及勤續十年
未滿ニシテ在職中死亡シタル者アリタル場合ニモ之ヲ適用ス

前項ノ期間内ニ於テ既ニ一時金ヲ受ケタル者又ハ其ノ遺族ニシテ前項ニ
依リ退隱料又ハ扶助料ヲ受クルトキハ一時金ヲ返納セシム其ノ完納ニ至
ル迄退隱料又ハ扶助料ヲ以テ返納金ニ充ツ

第二項ニ依リ退隱料扶助料又ハ一時金ヲ請求シ得ヘキ期間ハ本法施行ノ
日ヨリ之ヲ起算ス

女監取締ノ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤續年數ハ巡查看守
退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル勤續年數ニ非サルモノト見做ス

○巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令

(明治三十四年七月、改正三十八年第三十九號、
勅令第四百四十九號、大正四年第三十五號)

第一條 巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル
感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ本屬
長官ニ於テ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ其ノ治療中療治料ヲ給ス
療治料ハ一日貳圓以内トス但治療費一日平均二圓ヲ超過シタルトキハ適
當ト認ムヘキ實費ヲ精算シテ之ヲ追給スルコトアルヘシ

第二條 療治料ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ給助料ヲ給ス

一 治療二十日以上ニ涉リ引續キ在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

二 療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

前項ノ扶助料ハ第一號ニ當ル者ニ在リテハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分トシ第二號ニ當ル者ニ在リテハ退職當時ノ月俸三箇月分トス

療治料ヲ受クル者治療二十日以上ニ涉ラスト雖モ引續キ在職シ本屬長官必要ト認ムルトキハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分以内ノ範圍ニ於テ給助料ヲ給スルコトアルヘシ

但治療七日ニ滿タサルトキハ此ノ限リニアラス

第三條 巡查又ハ看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先ツ

一 配偶者

二 直系卑屬

三 直系尊屬

四 兄弟姉妹

前項親族ニシテ公權剝奪若クハ停止中ニ係リ又ハ行衛不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一ヶ月分トシ勤續一年以上九年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分二ヲ増加ス但職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ増加ス

勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ル

第四條 前條ニ依リ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フ可キ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分一以内ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 休職者ハ在職者ニ準シ休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ニ依リ本令ニ依ル給與ヲ行フ

第六條 本令ニ依ル給與ハ之ヲ行フヘキ事由ノ生シタル當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス但休職者ニ在リテハ休職ヲ命セラレタル際俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第七條 本令ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、警視廳消防手及女監取締ニ之ヲ適用ス

附 則 (明治三十八年勅令第三十九號)

女監取締ハ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤續年數ハ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第三條ニ規定スル勤續年數ニ非サルモノト看做ス

○巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令 (明治三十四年七月勅令第四百十八號、改正明治四十年五月勅令第九十九號、明治四十四年七月勅令第二百一號)

第一條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第四條第二項ノ退隱料年額及同條

第三項ノ增加金額ノ等差ハ左ノ如シ

第一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ

亡シタルトキ 退隱料年額 增加金額 六箇月分 四箇月分

第二 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ 五箇月半分 三箇月半分

若ハ疾病ニ罹リタルトキ 三箇月分

第三 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ 失ヒタルトキ 四箇月半分

第四 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ 二箇月半分

若ハ疾病ニ罹リタルトキ

第五 一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ

失ヒタルトキ

四箇月分

二箇月分

第六 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ

三箇月分

一箇月分

若ハ疾病ニ罹リタルトキ

傷痍疾病ノ等差ハ文官傷痍疾病等差例ニ例ル

第二條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第二十三條ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給

與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテハ内閣恩給局長其ノ他ニ在リテハ地方長官

(東京府ニ在リテハ警視總監)トス

臺灣ニ於テハ前項ノ行政官廳ハ國庫ヨリ給與金ヲ支給スヘキ者ニ在リテ

ハ臺灣總督其ノ他ニ在リテハ廳長トス

第一項ノ行政官廳ハ朝鮮總督府所屬ノ者ニ在リテハ朝鮮總督、關東都督

府ノ者ニ在リテハ關東都督、樺太廳所屬ノ者ニ在リテハ樺太廳長官トス

附 則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之レヲ施行ス

○巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ内閣

恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶

助料取扱規程(明治三十四年八月閣令第一號、改正明治四十一年十二月閣令第七號明治四十三年三月閣令第七號大正二年七月閣令第四號)

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬ス

ル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程左ノ通之レヲ定ム

第一條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料又ハ一時金ヲ受クヘ

キ者ハ退隱當時ノ本屬廳ノ長官ニ請求スヘシ但シ廢官廢廳ニ當リタルト

キハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職履歷書

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程

二 戶籍謄本

但一時金請求書ニハ戶籍謄本ノ添付ヲ要セス

巡查看守退隱料及及遺族扶助料法第三條第一項及第四條第三項ニ依ル退隱料年額増加ノ請求書ニハ前項書類ノ外前ニ受ケタル隱退料證書ヲ添付スヘシ

第三條 職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ

掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其ノ事實ヲ證明スヘシ

一 傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル事實ヲ認ムヘキ證據書類

二 醫師ノ診斷書

第四條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ戶籍謄本及第五條乃至十一條ノ書類ヲ添付シ住所地ノ地方長官ニ請求スヘシ

第五條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第七條第一項第一號又ハ第二號ニ

當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死亡者ノ履歷書ヲ其ノ遺族ニ下附スヘシ同條第一項第三號末段又ハ同條第二項但書ニ當ル者ノ遺族ノ請求アルトキ亦同シ

第六條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第七條第一項第一號又ハ同條第二項但書ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其ノ傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ診斷書ヲ併セテ其ノ遺族ニ下附スヘシ

第七條 退隱料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助料ヲ請求スルモノハ死亡者ノ受ケタル退隱料證書ヲ添付スヘシ

第八條 扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添付スヘシ

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ據リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程

第九條 重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ確定裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十條 六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十一條 巡查看手退隱料及遺族扶助料法第十條又ハ第十三條ニ當リ扶助料ヲ請求スル者ハ自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書篤疾又ハ癱疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十二條 退隱料又ハ一時金ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在職年數及退隱料年額又ハ一時金計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ内閣恩給局長ニ差出スヘシ扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

第十三條 内閣恩給局ニ於テ退隱料扶助料又ハ一時金ノ支給ヲ許可シタルトキハ證書ヲ作り本人住所地ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付スヘシ但シ退隱料又ハ一時金ノ證書ヲ下付スルトキハ先ツ第一條ニ依リ請求ヲ爲シタル官廳ヲ經由スヘシ

前項ノ證書ヲ下付シタルトキハ内閣恩給局ハ其ノ旨ヲ爲替貯金局ニ通知スヘシ

第十四條 退隱料及扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利ノ消滅若ハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

退隱料及扶助料ノ支給ニ關スル手續ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者重罪若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ若クハ之ヲ取消サレタルトキハ其ノ確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ爲替貯金局ニ通知スヘシ

第十六條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ當ル者アルトキハ其ノ任用シタル官廳ヨリ爲替貯金局ニ通知スヘシ爾後其ノ俸給額ニ異動アルトキ及解任シタルトキ亦同シ但シ該通知書ニハ俸給額及其ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十七條 爲替貯金局ニ於テ前二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

第十八條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ヨリ最寄郵便局ヲ經テ之ヲ爲替貯金局ニ届出ヘシ

第十九條 爲替貯金局ニ於テ退隱料又ハ扶助料ノ支給ヲ廢止シ若ハ停止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

第二十條 退隱料又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ退隱料又ハ扶助料ノ支給ヲ爲スヘキ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ届出ヘシ

爲替貯金局ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此ノ場合ニ於テ恩給局ハ證書ノ謄本ヲ作り爲替貯金局及支給郵便局ヲ經テ本人ニ下附スヘシ
前項證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノトス

第二十一條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ其ノ届書ニ戸籍謄本及第十三條ノ證書ヲ添ハ支給郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ届出ツヘシ

爲替貯金局ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ局長署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

附 則

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程

第二十二條 巡查看守給助例ニ依リ退職給助、傷痍給助又ハ死亡給助ヲ受タル者若ハク受ヘキ者ハ其ノ給助ノ種類ニ從ヒ退隱料、一時金又ハ扶助料ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ニ準シ本令ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本令ニ於テ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議院法拔萃

(明治二十三年十月勅令第二百二十號)

紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ

受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉
リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ
訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ズ

○衆議院規則拔萃

第十二章 警察及秩序

第一節 警察

第一百六十八條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行
ス

第一百六十九條 守衛ハ議事堂内警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス

但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂内ノ警察ヲ行フコ
トアルヘシ

第一百七十條 院内ノ防火、點燈、導水、煖爐、及室内掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督
ス

第一百七十一條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警
察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フ可シ

但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

○刑事訟訴法拔萃

第三編

第一章

第二節 現行犯罪

衆議院規則拔萃刑事訟訴法拔萃

第五十六條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第五十七條 重罪輕罪ニ付左ノ場合ハ現行犯ニ準ス

第一犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラレルトキ

第二兇器贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其ノ處分ヲ求メタルトキ

第五十八條 司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒、其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ、檢事

違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

第五十九條 巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

第六十條 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ被告人又ハ巡查、憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコト

ヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

訓示 (大正二年十二月守衛長訓示)

- 一、議院警察ノ執行ハ他ノ執行事務ト異リ大ニ變通ノ餘裕ナカルヘカラス故ニ諸般ノ事務必ス緩急ヲ考覈シ議院警察ノ目的ニ弛背セサル様注意セララルヘシ
- 二、苟モ事ノ重大ト認ムル事務ハ必ス上司ノ指揮ヲ待チ越權專斷ノ行爲ナキヲ要ス
- 三、守衛ハ執行ノ官ナレハ勉メテ己ノ品位ヲ高フシ威嚴ヲ保チ禮節ヲ守リ性行ヲ正フシ守衛タルノ體面ヲ汚ササルコト
- 四、議員其他議會ニ出入スルモノニ對スル言語動作ハ慎重ヲ旨トシ苟モ粗暴ニ渉ル等ノ舉動アルヘカラス又同僚ハ一致協同勞逸互ニ相助ケ緩

急共ニ相濟フノ覺悟ナカル可カラス

- 五、病疫ノ發生及蔓延ハ常ニ多聚ノ媒介ニ因ル故ニ開會中一致衛生ノコトニ留意シ衛生警察ノ本旨ニ戾ルコトナキヲ要ス
- 六、政府派遣ノ警察官トノ交渉ハ尤モ圓滿ナルヲ要シ常ニ脈絡ノ疏通ニ勉メ取締上ノ遺算ナキヲ要ス

大正七年一月廿六日印刷
大正七年一月三十日發行

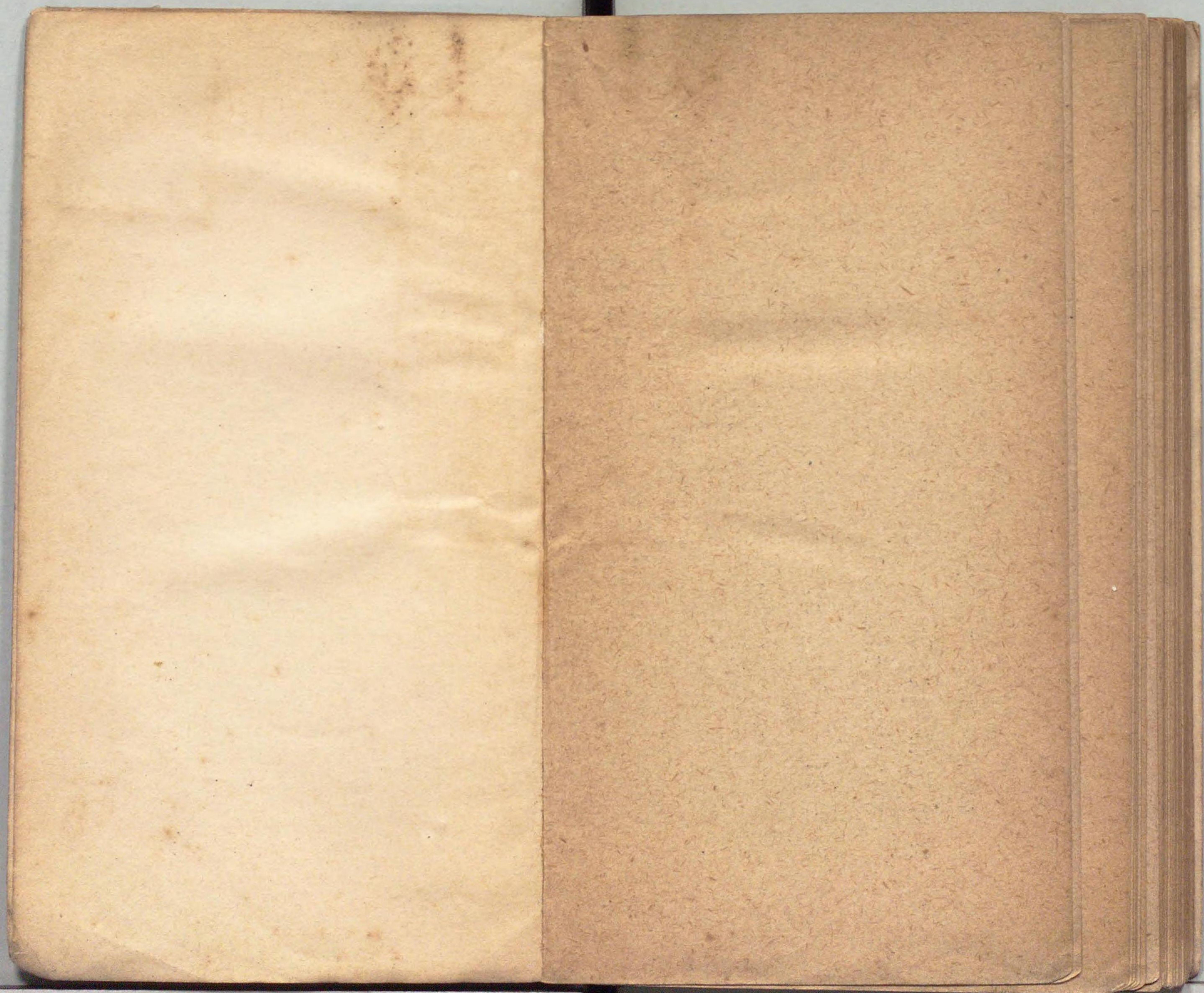
衆議院事務局

印刷者 長尾正人

東京市神田區中猿樂町十七番地

印刷所 中外印刷株式會社

東京市神田區中猿樂町十七番地



3 /
567

